

MUSIC DISK RECORDER

YAMAHA
WORLD CORPORATION

MDR-3P

エレクトーン専用

取扱説明書

このたびは、ヤマハミュージックディスクレコーダーMDR-3Pをお買い上げいただきまして、
誠にありがとうございます。

ミュージックディスクレコーダーMDR-3Pは、
ヤマハエレクトーン専用の周辺機器として開発されたMIDI対応の演奏記録装置で、
以下のような数多くの特長を備えています。

- 演奏をMIDI信号によってやりとりするデジタル方式のレコーダーですから、エレクトーンでの演奏をきわめて忠実に録音／再現することができます。
- 演奏ばかりでなく、レジストレーションなどエレクトーンが記憶しているさまざまなデータも記録することができます。
- エレクトーン各鍵盤の演奏を同時に録音できるのはもちろん、各パートを別々に録音したり、オブリガートなどのパート録音も可能です。
- 再生では、録音した各パートをすべて再生できるほか、特定のパートの再生をキャンセルするマイナススワン再生も可能です。
- エレクトーン各鍵盤名に対応したボタンとインジケータランプをパネルに配しているため、録音／再生するパートが一目でわかります。
- MDR-3Pの前機種、MDR-2Pとのソフトの互換性がありますので、MDR-2Pで使用したフロッピーディスクをそのままご利用いただき、録音／再生を行なうことができます。

MDR-3Pの優れた機能をご活用いただき、
未永くご愛用いただくため、
本書をよくお読みくださいますよう、
お願い申し上げます。

『MDR-3P』やさしい操作ガイド

I. MDR-3Pをご紹介します

II. 録音してみましょう

III. 再生してみましょう

IV. その他にもこんな便利な機能があります

V. MDR-3Pをもっと知りたい方のために

VI. 参考

(ページ)

1. MDR-3Pとエレクトーンを接続してみましょう	2
2. MDR-3P用のフロッピーディスクをつくりましょう	3
3. 録音してみましょう	4
4. 再生してみましょう	5
1. ご使用にあたって守っていただきたいこと	6
2. MDR-3Pとエレクトーンを接続してみましょう	7
3. 表示の意味を知りましょう	7
4. 各部の名称をおぼえましょう	8
5. MDR-3P用のフロッピーディスクをつくりましょう	9
1. 録音してみましょう	10
2. 各パートの演奏を別々に録音してみましょう	12
3. レジストレーションデータを記録してみましょう	14
1. 再生してみましょう	16
2. 特定のパートだけ再生してみましょう(マイナスワン再生)	17
3. ディスクに録音した曲を繰り返し再生してみましょう	18
4. その他のコントロール機能を紹介します	19
1. すでに記録したデータを別のソングナンバーにコピーしてみましょう	20
2. すでに記録したデータを削除してみましょう	21
3. メモリー残量の確認をしてみましょう	21
1. リードボイスによるオブリガートのパート録音をしてみましょう	22
2. アルペジオコードの音色によるパート録音をしてみましょう	23
3. キーボードパーカッションによるリズムのパート録音をしてみましょう	24
■ 記録される内容とチャンネル	25
■ 操作チャート	26
■ 故障かなどお考えになる前に	27
■ 仕様	27
■ MIDIインプリメンテーションチャート	28
■ アフターサービスと保証	29

N

D

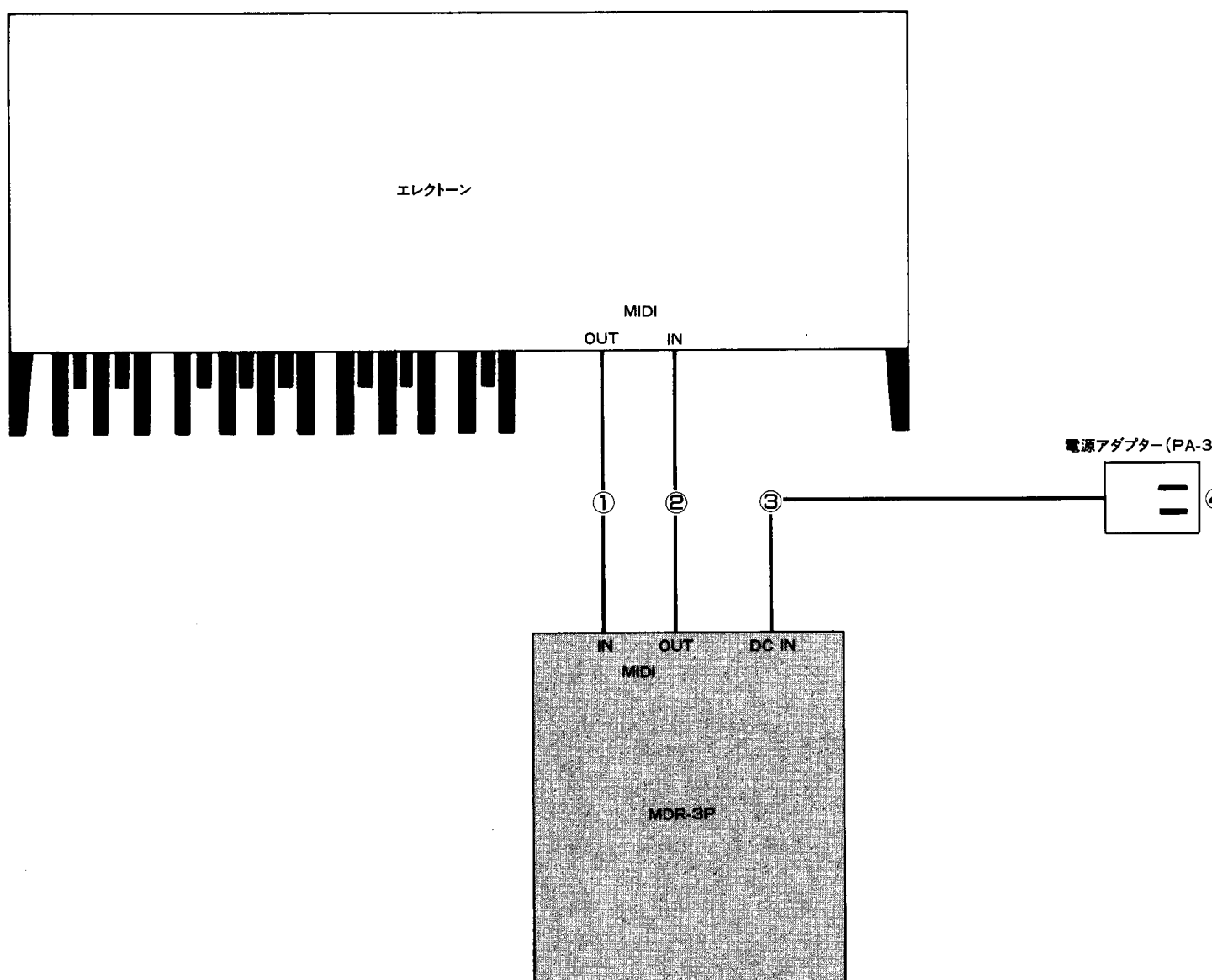
E

X

MDR-3P とエレクトーンを接続してみましょう。

まず、エレクトーンとMDR-3Pを、付属のMIDIケーブルで接続するところから始めてください。

- ①エレクトーンの[MIDI OUT]とMDR-3Pの[MIDI IN]を接続します
- ②エレクトーンの[MIDI IN]とMDR-3Pの[MIDI OUT]を接続します。
- ③電源アダプターをMDR-3Pの[DC IN]に接続します。
- ④電源アダプターのプラグをコンセントに接続します。

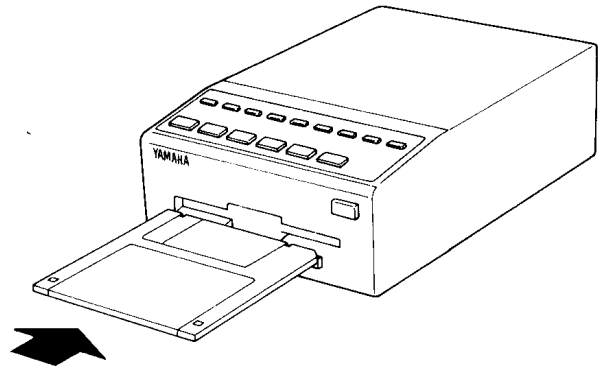


MDR-3P 用のフロッピーディスクをつくりましょう。

付属および市販のフロッピーディスクはそのまま使用できません。「フォーマット」という処置をほどこして初めて使用できるようになります。まずは、演奏を録音する前に、以下の操作を行ってください。

1 電源を入れ、未使用のディスクを装着口に挿入します。

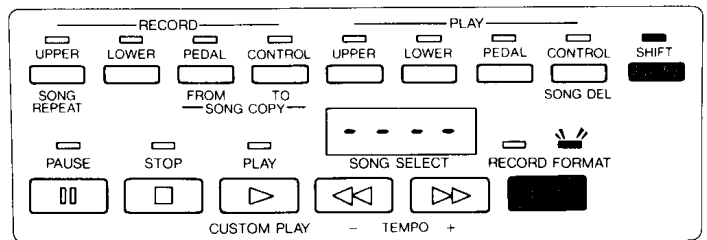
本体正面の電源を ON にしたら、右図のようにディスクのラベル面を上にして、未使用のディスクを装着してださい。



2 [REPEAT] ボタンを押しながら、[FORMAT] ボタンを押します。

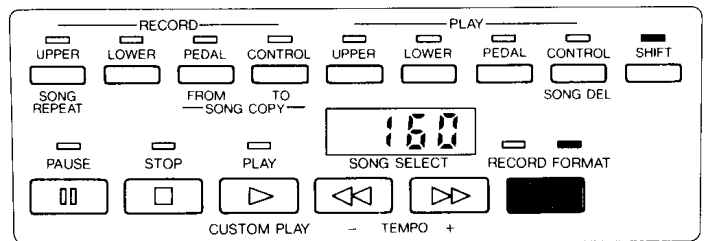
デジタルディスプレイの表示が **----** に変わり、[フォーマット]のランプが点滅します。

MDR-3Pでは、あるひとつの操作が終わると、次の操作に使うボタンのランプが点滅しますから、ランプの指示に従えば、間違いない操作ができます。



3 [FORMAT] ボタンを押します。

ディスクのフォーマットが開始され、デジタルディスプレイに表示された数字が **160** から **001** まで数が少なくなっていくます。



4 デジタルディスプレイの表示が **01** になったら、フォーマットが終了したことを示します。

さあ、これで、録音が行えるフロッピーディスクができあがりました。これからは、エレクトーンで想う存分録音と再生を楽しんでください。

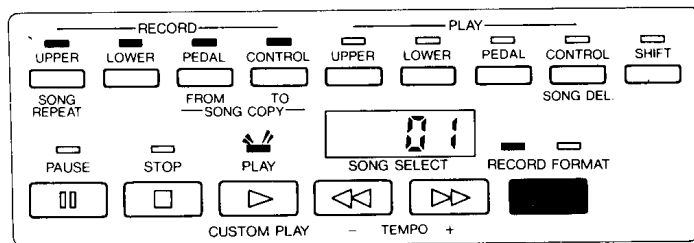
録音済みのディスクをフォーマットすると、録音データがすべて消えてしまいますのでフォーマットはディスクの内容を十分確認してから行ってください。

録音してみましょう。

エレクトーンへの接続が終わり、MDR-3P に使用するフロッピーディスクの準備が終わったら、いよいよエレクトーンの演奏を MDR-3P に録音してきましょう。

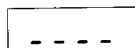
1 レコード [RECORD] ボタンを押します。

まず、録音したい曲にふさわしいレジストレーションをエレクトーンのレジストレーションメモリーに必要なだけ記憶させ、[レコード] ボタンを押してください。すぐに、[レコード]のランプが点灯し、[プレイ]のランプが点滅を始めます。

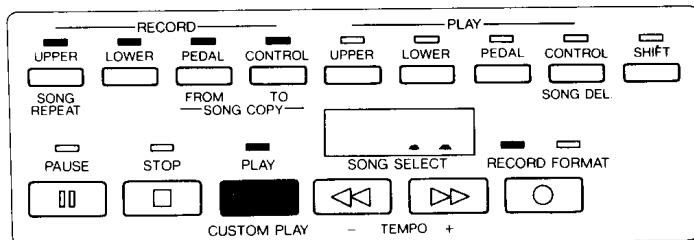


2 プレイ [PLAY] ボタンを押します。

[プレイ]のランプが点灯し、デジタルディスプレイでは、

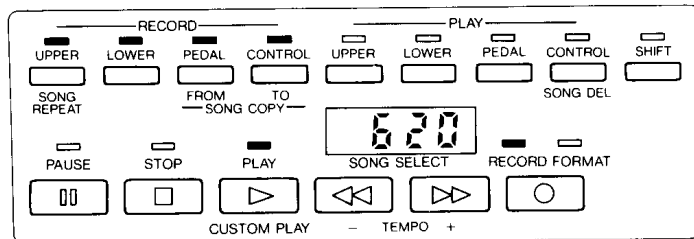
が表示されます。

走行している間はレジストレーションを記録しています。



3 デジタルディスプレイの表示が数字に変わったところで最初に使うレジストレーションメモリーのナンバーボタンを押して演奏を始めてください。

演奏を始めてください。エレクトーンの演奏がそのまま MDR-3P に録音されます。

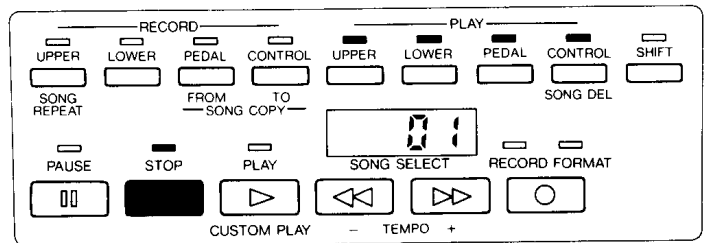


演奏の録音をもう1度やりなおしたい場合は

- ▶ 録音を途中で中断し、もう1度最初から弾き直したい場合は、『リトライ機能』を使いますと、いったんソングナンバーのデータを削除するなどの操作をする必要なしにやり直すことができます。(⇒11ページ)
- ▶ [ストップ]ボタンを押してやり直せる場合は[]に戻って最初から録音を始めてください。ただし、同じソングナンバーに録音する時は、前の録音データより長く録音することはできませんので、前のデータを削除する必要があります。(⇒21ページ)

4 演奏が終了したら、^{ストップ}[STOP] ボタンを押します。

デジタルディスプレイが **01** を表示し、録音の終了を知らせます。

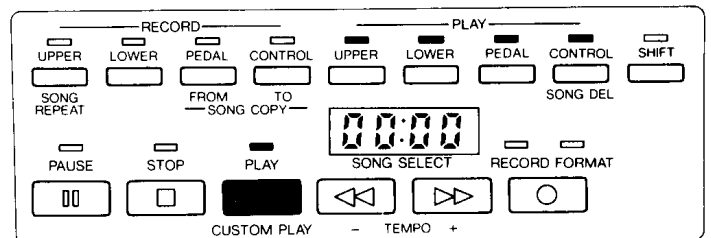


再生してみましょう。

さあ、上手に録音できましたか?それでは、MDR-3Pで今の演奏を再生してみましょう。

1 ^{プレイ}[PLAY] ボタンを押します。

まず、レジストレーションがエレクトーンに送られ、録音した演奏がスタートします。再生が終了すると、自動的にストップします。



-1 / ご使用にあたって守っていただきたいこと

電源について

- 電源アダプターは、必ず付属の電源アダプター (PA-3L) をお使いください。
- 必ず、AC 100 V (50 Hz または 60 Hz) のコンセントから電源を取ってください。
- 落雷などのおそれがある場合は、早めに電源アダプターをコンセントから抜き取ってください。
- 長期間ご使用にならない時は、電源アダプターをコンセントから抜き取ってください。

電源アダプターの扱いについて

- ぬれた手で電源プラグにふれると、感電するおそれがありますので、充分ご注意ください。
- コードの断線やショートを防ぐため、電源アダプターをコンセントから抜く時は、本体部分を持って抜いてください。

接続について

- 本機の接続は、必ず、接続するすべての機器の電源スイッチを切った状態で行ってください。
- セットを移動する場合には、電源コード、MIDI ケーブルをすべて抜いてください。

取り扱いについて

- ご自分で機器の改造を行ったり、部品を取り外すことは、大変危険ですので、絶対に避けてください。
- ボタン、スイッチ類に無理な力を加えないでください。
- 断線やショートを防ぐため、MIDI ケーブルを端子から抜く時は、必ずプラグ部分を持って抜いてください。
- 内部に水などが入ってしまった時は、ただちに電源スイッチを切り、電源アダプターをコンセントから抜いた上で、お求めの販売店もしくは電音サービスセンター・サービスステーションまでご連絡ください。

設置場所について

- 直射日光は避けてください。
- 湿気やホコリの多い場所や、温度の特に低い場所も避けてください。

外装のお手入れについて

- お手入れは、必ず、柔らかい布で乾拭きしてください。
- シンナーやベンジンなどの溶剤は、絶対に避けてください。また、化学ぞうきんなども避けてください。
- 汚れがとくにひどい場合は、水で薄めた台所用中性洗剤に布をひたし、よく絞ってから汚れを拭きとってください。その後、乾いた布で仕上げてください。

万一異常が生じた場合は

- 異常なおい煙が出た場合は、ただちに電源アダプターをコンセントから抜き、お求めの販売店、もしくは電音サービスセンター・サービスステーションまでご連絡ください。

使用するフロッピーディスクについて

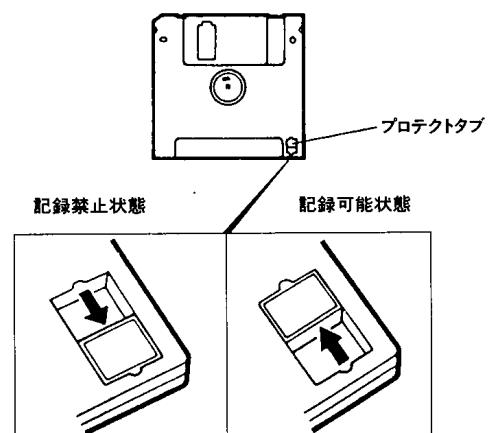
- 必ず、以下に示した 3.5 インチマイクロフロッピーディスクを使用してください。他のフロッピーディスクは、使用できなかったり、故障やエラーの原因となる場合があります。
- ▶ 3.5 インチ 2 DD
- 未使用のディスクに演奏を録音する場合は、ディスクのフォーマットングを行ってください。(→ 9 ページ)

フロッピーディスクの取り扱いにあたって

- シャッター部は開けないでください。内部の磁性面を汚したり、ホコリなどを付けたら、エラーの原因となります。
- スピーカーやテレビなど、強い磁気を発するものに近づけないでください。
- 直射日光に当たり、高温のものに近づけないでください。
- 本やノートなど、重いものを上に乗せないでください。
- 水をこぼしたりして、ぬらさないでください。
- 保管場所は、以下の環境を守ってください。
 - ▶ 保管温度: 4 ~ 53°C
 - ▶ 保管湿度: 8 ~ 90%
 - ▶ ホコリや砂、煙などが付きにくい場所
- ラベルは正しい位置に貼ってください。また、ラベルを貼りかえる際は、重ね貼りをしないでください。

ディスクに記録したデータの保護

- フロッピーディスクの裏面右下には、プロテクトタブが付いています。このタブを記録禁止状態にセットすれば、ディスクに記録したデータを保護することができます。
- 記録禁止状態: プロテクトタブを外側に移動させると、データが記録されない状態になります。
- 記録可能状態: プロテクトタブを内側に移動させると、データが記録できる状態になります。

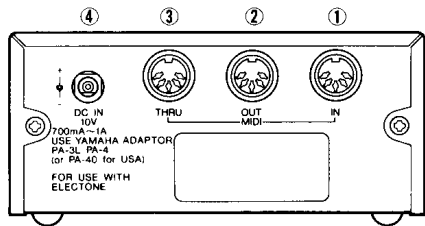


付属の補助シートについて

同梱の補助シートには、上鍵盤・下鍵盤・ペダル鍵盤・コントロール以外のパートを録音する時や、メモリー残量の確認を行う時などに必要な表示が印刷されています。これらの操作を行う時に、このシートを MDR-3P のパネル面に貼付すれば、操作がよりわかりやすくなります。

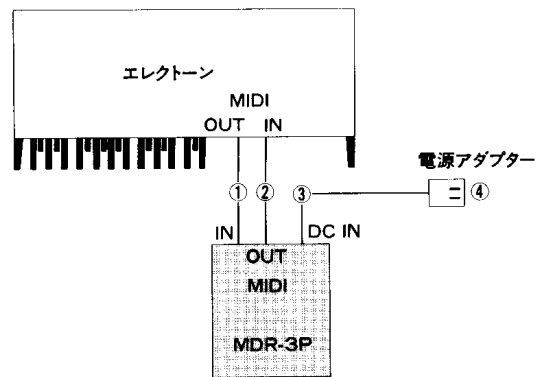
I-2 / MDR-3Pとエレクトーンを接続してみましょう

リアパネルの入出力端子



- ① MIDI IN : MIDI 信号を受信する端子。エレクトーンの MIDI OUT 端子と接続します。
- ② MIDI OUT : MIDI 信号を送信する端子。エレクトーンの MIDI IN 端子と接続します。
- ③ MIDI THRU : MIDI IN 端子に受信した信号をそのまま転送する端子。録音/再生時に、エレクトーンから拡張音源などに MIDI 信号を送信したい場合は、この端子と拡張音源などの MIDI IN 端子を接続してください。
- ④ DC IN : 電源アダプターを接続する端子です。

基本的な接続方法



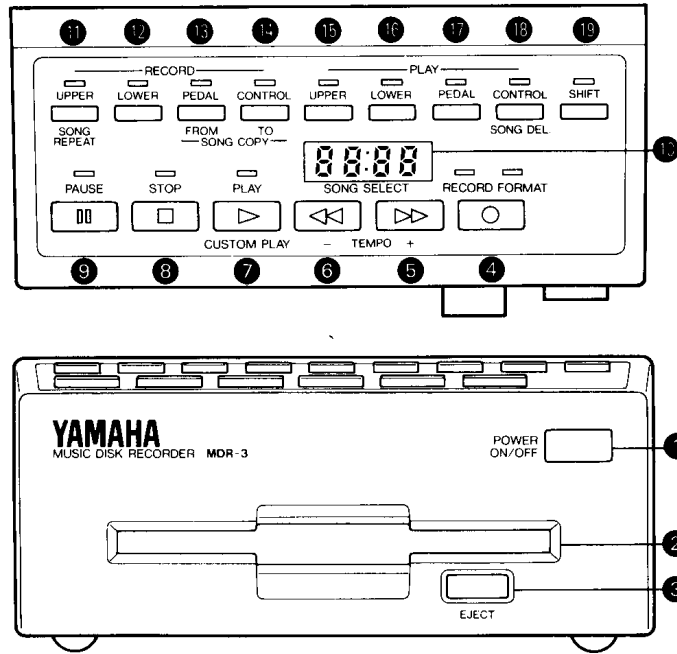
- ① エレクトーンの [MIDI OUT] と MDR-3P の [MIDI IN] を付属の MIDI ケーブルで接続。
- ② エレクトーンの [MIDI IN] と MDR-3P の [MIDI OUT] を付属の MIDI ケーブルで接続。
- ③ MDR-3P の [DC IN] に電源アダプターを接続。
- ④ 電源アダプターをコンセントに接続。

I-3 / 表示の意味を知りましょう

誤った操作を行った場合や何らかのエラーが生じた場合は、デジタルディスプレイに下表のような記号が表示されます。表示の意味を理解して対処してください。

表示	表示の意味と対処方法
Inst	ディスクが装着されていません。ディスクを装着してください。
Formt	装着したディスクはフォーマットされていません。フォーマットしてください。(→ 9 ページ)
Prot	①ディスクが記録禁止状態になっているため、録音、ソングコピー、ソングデリートが行えません。ディスクのプロテクトタブを記録可能状態にセットしてください。(→ 6 ページ) ②コピープロテクトのかかったディスクを使っている時に、MIDI ケーブルの接続が不完全な場合や、録音やソングコピー、ソングデリートを行おうとした場合、または、他のディスクへのコピーを行おうとした場合に、このメッセージが表示されます。
FULL	①メモリー残量が無くなったため、録音、ソングコピーが行えません。別のディスクを装着してください。 ②すべてのソングナンバーにデータが記録されているためソングコピーが行えません。ストップを押して、不要なソングを削除してください。 ③パート録音を行おうとした時、メモリー残量が不足していると、このメッセージが表示されます。
EPly	すべてのソングナンバーにデータが記録されていないためソングコピーが行えません。ストップを押してください。
CF01	録音/再生中などにディスクを取り出したためエラーになりました。ストップを押して、操作をやり直してください。
CF02	MDR-3P では再生できないディスクです。ストップを押して、適切なディスクを装着してください。
CF06	非常に多くの MIDI データを同時に受信したため、録音できませんでした。ストップを押してください。
CF07	ディスクに不良があるため、フォーマットできません。ストップを押して、別のディスクを装着してください。
CF08	MIDI の送/受信に何らかのエラーがありました。ストップを押してください。
CF09	MDR-3P のメモリー (RAM) に何らかのエラーがありました。ストップを押して、電源を入れ直してください。電源を入れ直しても同じメッセージが表示される場合は、故障ですので、販売店までご連絡ください。
--01	フォーマットが終ったディスクに録音しようとした時、すでに演奏が録音されていたり、レジストレーションなどのデータのみが録音されていた時に表示されます。(→ 11 ページ)

1-4 / 各部の名称をおぼえましょう



① パワースイッチ：電源のON/OFF スイッチ。録音や再生を行っている間は、絶対に電源をOFFにしないでください。

② ディスク装着口：3.5 インチフロッピーディスク(2 DD) を装着し、駆動させるディスクドライブです。

③ イジェクト：装着したディスクを取り出す時に押します。

④ [レコード] / [フォーマット]：録音を行う時、まず最初に押すスイッチです。また、[シフト]を押しながらONにすれば、ディスクのフォーマットが行える状態になります。

⑤ [ソングセレクト / テンポ+] / 早送り：ソングナンバーを進める時に押します。[シフト]を押しながら、このスイッチを押せば、再生のテンポを速くすることができます。また、再生中に押せば、早送りができます。

⑥ [ソングセレクト / テンポ-] / 早戻し：ソングナンバーを後退させる時に押します。[シフト]を押しながら、このスイッチを押せば、再生のテンポを遅くすることができます。また、再生中に押せば、早戻しができます。

⑦ [プレイ] / [カスタムプレイ]：ストップ状態の時に押せば、レジストレーションなどの送信と演奏の再生がスタートし、[レコード]をONにした後で押せば、レジストレーションなどの受信と演奏の録音がスタートします。また、[シフト]を押しながらONにすれば、演奏のみの再生または録音がスタートします。

⑧ [ストップ]：録音や再生をストップさせる時に押すスイッチです。

⑨ [ポーズ]：再生中にこのスイッチを押せば、再生を一時的に停止させることができます。また、ストップ時に[シフト]を押しながら、このスイッチを押せば、メモリー残量の確認ができます。

⑩ デジタルディスプレイ：ストップ時にはソングナンバー、録音時にはメモリー残量、再生時には時間を表示します。その他、現在の状態を示す記号なども表示します。

レコードセクション

⑪ [アッパー / ソングリピート]：録音時にこのスイッチがONになっていれば、上鍵盤の演奏が録音されます。また、[シフト]をおしながらONにすれば、リピート再生が行えるようになります。

⑫ [ロワー]：録音時にこのスイッチがONになっていれば、下鍵盤の演奏が録音されます。

⑬ [ペダル / ソングコピーフロム]：録音時にこのスイッチがONになっていれば、ペダル鍵盤の演奏が録音されます。また[シフト]を押しながらONにすれば、コピー元のソングナンバーが選択できます。

⑭ [コントロール / ソングコピートゥー]：録音時にこのスイッチがONになったら、エクスプレッションペダルなどのデータが記録されます。また、[シフト]を押しながらONにすれば、コピー先のソングナンバーが選択できます。

プレイセクション

⑮ [アッパー]：再生時または録音時に、このスイッチがONになっていれば、録音した上鍵盤の演奏が再生されます。

⑯ [ロワー]：再生時または録音時に、このスイッチがONになっていれば、録音した下鍵盤の演奏が再生されます。

⑰ [ペダル]：再生時または録音時に、このスイッチがONになっていれば、録音したペダル鍵盤の演奏が再生されます。

⑱ [コントロール / ソングティリート]：再生時または録音時に、このスイッチがONになっていれば、記録したエクスプレッションペダルなどのデータが再現されます。また、[シフト]を押しながらONにすれば、ソングの削除が行えるようになります。

⑲ [シフト]：このスイッチを押している間は、各スイッチの役割が、緑色で表示されている機能に切り替わります。

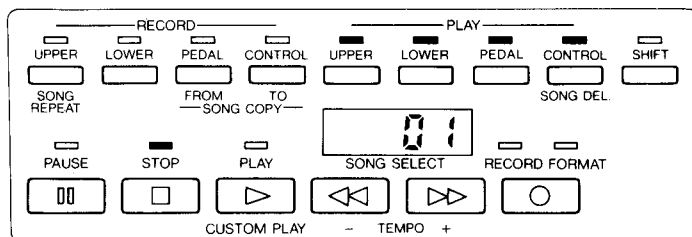
1-5 / MDR-3P用のフロッピーディスクをつくりましょう

フロッピーディスクに録音するためには、以下の操作を行い専用のディスクにつくり変える必要があります。

1 電源を ON にしてください。

電源を ON にすると、[ストップ]のランプが点灯し、ストップ状態になります。

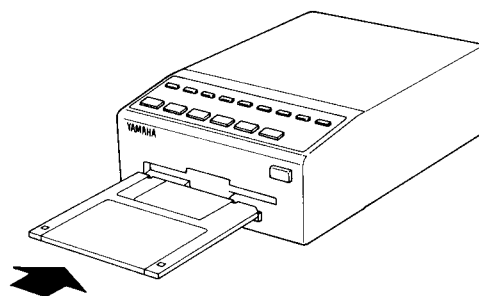
MDR-3P 用としてつくり変えていないディスクを装着し操作しようとする、デジタルディスプレイに **Fort** が表示され、フォーマットを行うように促します。



2 フォーマットしたいディスクを装着してください。

ご用意いただいた未使用の 3.5 インチ 2 DD フロッピーディスクを表を上にして、カシャッと音がするまで水平に挿入してください。

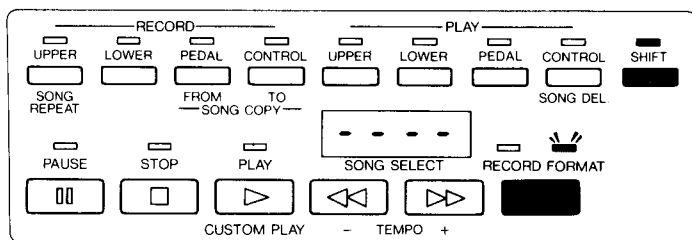
ディスクのライトプロテクトタブは録音可能状態のままで行ってください。



3 ^{シフト} [SHIFT] ボタンを押しながら、^{フォーマット} [FORMAT] ボタンを押してください。

デジタルディスプレイに **----** が表示され、フォーマットが行える状態になったことを示します。その時、[フォーマット]のランプは点滅を開始しています。

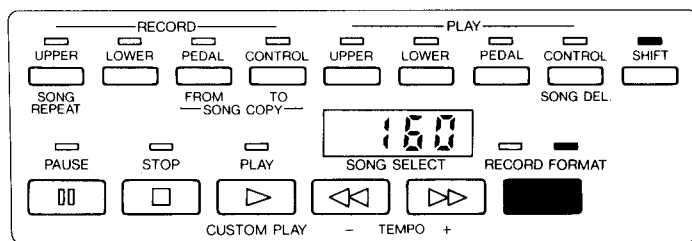
録音済みのディスクに誤ってフォーマットの操作を行うと、すでに記録されていたデータが失われてしまいますので直ちに[ストップ]ボタンを押してください。



4 ^{フォーマット} [FORMAT] ボタンを押してください。

[フォーマット] のランプが点滅から点灯に変わり、フォーマットが開始されます。この時、デジタルディスプレイには **160** が表示されその後

001 までカウントダウンしていきます。

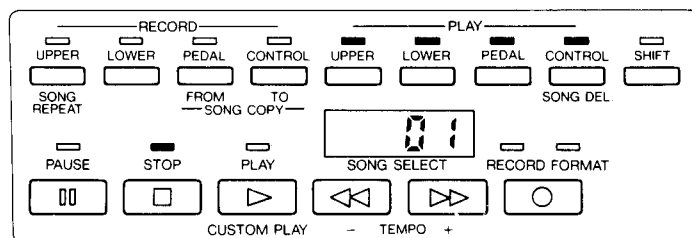


5 フォーマットが終わったら、自動的にストップ状態に戻ります。

終了しますと、[フォーマット]ランプが消え、ストップ状態に戻ります。そして、

デジタルディスプレイには、ソングナンバー **01** が表示されます。

さあ、これで MDR-3P 専用のフロッピーディスクができあがりました。録音や再生を思う存分お楽しみください。



II-1 / 録音してみましょう

[レコード] ボタンを押し、次に[プレイ] ボタンを押すだけで、エレクトーン演奏の録音やレジストレーションなどの記録が行えます。

1 エレクトーンでレジストレーションなどをセットしてください。

演奏に使用したいレジストレーションを、エレクトーンのリジストレーションメモリーに必要なだけ記憶させ、曲の先頭で使うレジストレーションをパネルにセットしてください。

通常の状態の録音では、エレクトーンが記憶しているレジストレーションなどのデータを、録音開始時に記録するようになっています。

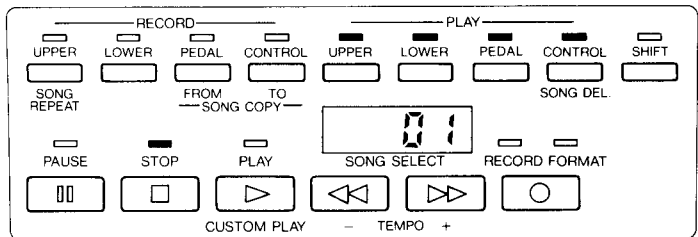
HXシリーズのキーボードパーカッションを録音する場合

- キーボードパーカッション以外のパートを先に録音し、「キーボードパーカッションによるリズムのパート録音をしてみましょう」(24ページ)を参照し、キーボードパーカッションを重ねて録音します。
- キーボードパーカッションを他のパートと同時に録音する場合は、「HXシリーズのキーボードパーカッションを録音する方法」(27ページ)をご参照ください。

2 電源を ON にし、フォーマット済みのディスクを装着します。

フォーマット済みのディスクを装着すると、デジタルディスプレイには

01 が表示され、今ソングナンバー 1 番が選ばれていることを示します。

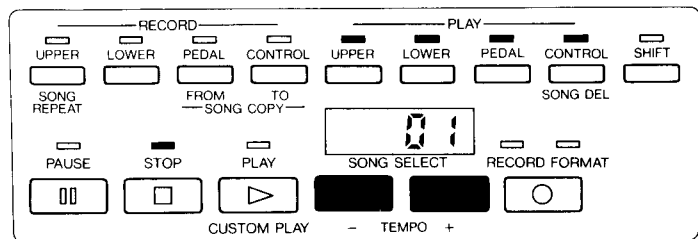


3 [ソングセレクト] ボタンで録音したいソングナンバーを選んでください。

ソングナンバーは 1 番から 16 番まであり、[ソングセレクト] ボタンを押すことによって、デジタルディスプレイに表示されるソングナンバーを自由に選ぶことができます。

- ▶ [+]: 1 回押すごとにソングナンバーが進みます。
- ▶ [-]: 1 回押すごとにソングナンバーが減っていきます。

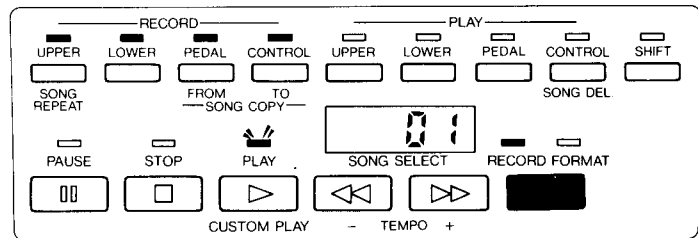
長く押しつづけると、離すまで連続的にソングナンバーが変化していきます。



4 [レコード] ボタンを押してください。

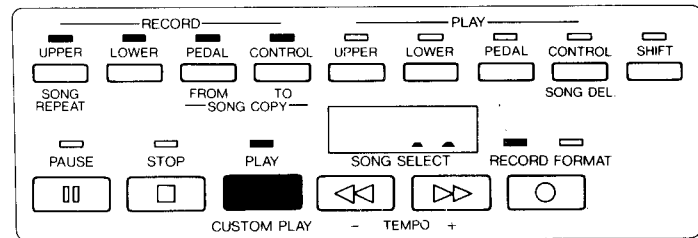
[レコード] ランプが点灯し、録音が行える状態になったことを示します。この時、[プレイ] ランプが点滅し始めます。

[レコード] ボタンを押すと、演奏によって録音されるパートが、レコードセクションのランプの点灯によって示されます。電源を入れた後、そのままの状態では、[アッパー]～[コントロール]ランプがすべて ON になっており、エレクトーンの演奏がそのまま録音できることを示します。



5 [プレイ] ボタンを押してください。

[プレイ] ランプが点灯し、デジタルディスプレイでは“-”が左から右へ進行します。これは、現在エレクトーンが記憶しているレジストレーションなどのデータがディスクに記録されていることを示します。その間に演奏を行っても、録音はされません。また、レジストレーションなどのデータを記録させないで、すぐに録音を開始したい場合は[シフト]+[カスタムプレイ] ボタンを押してください。

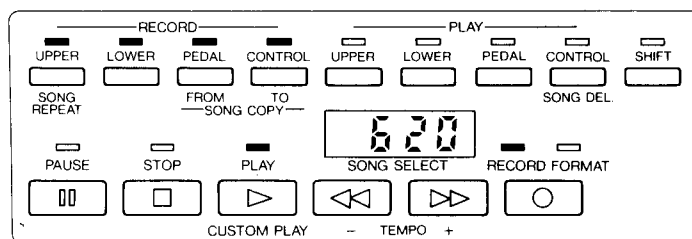


6 デジタルディスプレイに数字が表示されたら、最初に使うレジストレーションメモリーのナンバーボタンを押して演奏を開始してください。

レジストレーションなどの記録が終了しますと、メモリー残量を示す数字が表示されますから、エレクトーンでの演奏を開始してください。

メモリー残量を示す数値は、録音の進行にしたがって減少していきます。

数字が表示されてから演奏を開始するまでの空白時間も記録されます。

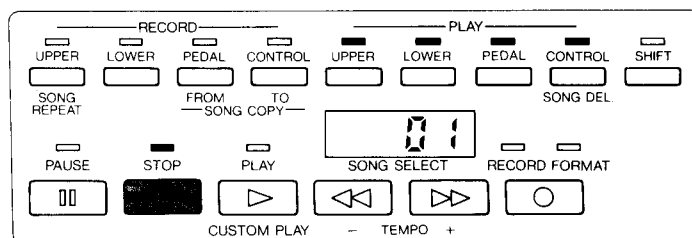


7 演奏が終了したら、ストップ [STOP] を押してください。

[ストップ] を押しますと、[レコード] と [プレイ] ランプが消え、ストップ状態に戻ります。

メモリー残量表示が **008** 以下になると、残量表示が点滅を始め、

注意を促します。 **000** になる前に、録音をストップさせてください。

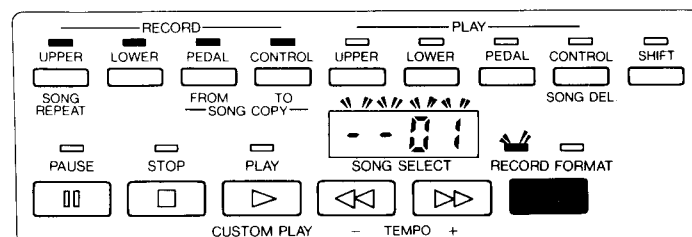


選択したソングナンバーにすでにデータが記録されている場合

すでに何らかのデータが記録されているソングナンバーを選んで [レコード] を押した場合は、右図のように、デジタルディスプレイの左側「--」が表示され、ソングナンバーとともに点滅して注意を促します。

- ▶ 録音を中止:[ストップ] ボタンを押す。
- ▶ 別のソングナンバーに録音:[ソングセレクト] ボタンを押して、ソングナンバーを変更。
- ▶ 現在のソングナンバーに録音:もう一度 [レコード] ボタンを押しますと、[レコード] ランプが点灯し、録音が行えるようになります。

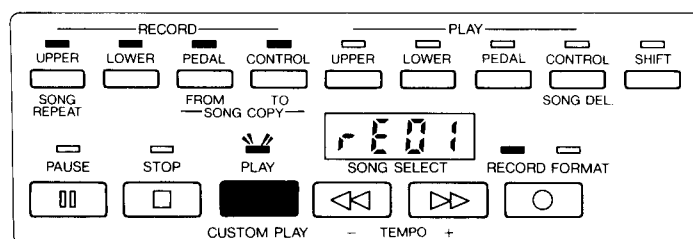
すでに記録されているデータより長く録音することはできませんが、短いデータを重ねて録音すると、それ以降の前のデータは残ります。不都合がある場合は、そのソングナンバーに記録されている前のデータを削除してください。(⇒ 21 ページ)



録音を途中で中断し、最初から演奏し直したい場合

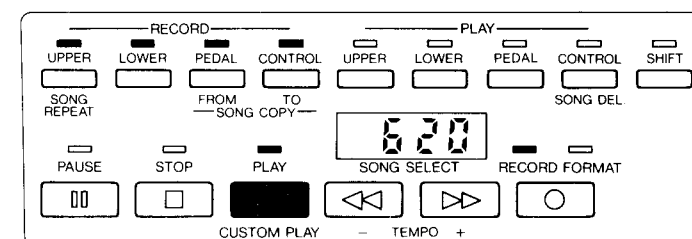
録音の途中でミスをしたなど、録音を始めからやり直したい時は、以下の [リトライ機能] を使います。いったんソングナンバーのデータを削除するなどの操作をする必要なしに、より簡単に録音のやり直しをすることができます。

1 録音の途中で プレイ [PLAY] ボタンを押してください。



録音の途中で [プレイ] ボタンを押すと、録音がストップし、曲の先頭に戻ります。デジタルディスプレイの左側には「rE」(リトライ) が表示され、[プレイ] ランプが点滅を始めます。

2 再度 プレイ [PLAY] ボタンを押して、録音をやり直してください。



[プレイ] ランプが点灯し、デジタルディスプレイにはメモリー残量がすぐに表示されますから、曲の先頭から録音をやり直してください。新たな演奏が録音されます。

11-2 / 各パートの演奏を別々に録音してみましょう

曲の演奏を各パートごとに別々に録音することができます。ここでは、伴奏を録音した後、メロディーを録音する例をみていきましょう。

1 エレクトーンでレジストレーションなどをセットしてください。

伴奏とメロディーを演奏するためのレジストレーションをレジストレーションメモリーに記憶させ、曲の先頭で使うレジストレーションをパネルにセットしてください。

2 フォーマット済みのディスクを装着し、何もデータが記録されていないソングナンバーを選んでください。

以上の操作については、10 ページを参照してください。

エレクトーン

- レジストレーションメモリーにレジストレーションを記憶。
- 曲の先頭で使用するレジストレーションをセット。

MDR-3P

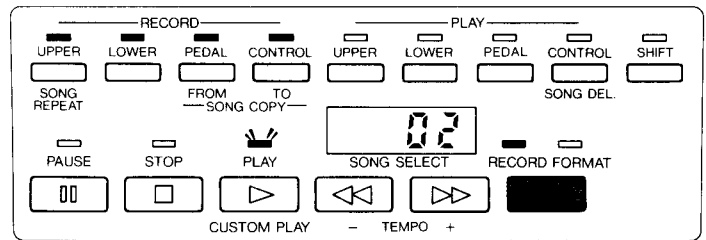
- パワーを ON にし、ディスクを装着。
- 録音するソングナンバーを選択。

伴奏を録音してみましょう

3 レコード ボタンを押してください。

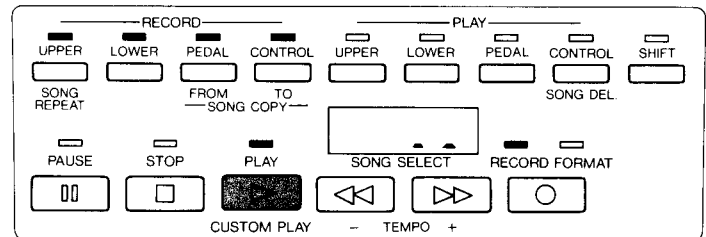
[レコード] ボタンを押しますと、レコードセクションのボタンで録音を行うパートを選ぶことができます。ここでは、まず伴奏を録音しますから、[ロー] [ペダル] [コントロール]が ON になっていることを確認してください。[アッパー]はON、OFFどちらでもかまいません。

[アッパー] は上鍵盤、[ロー]は下鍵盤、[ペダル]はペダル鍵盤に対応しています。また、[コントロール]は、エクスプレッションペダルやレジストレーションメモリーの切り替えなどを記録するためのパートです。



4 プレイ ボタンを押してください。

[プレイ] ランプが点灯し、まず、レジストレーションなどのデータが記録されます。その間、デジタルディスプレイには“—”が走行し、記録が終了すると、メモリー残量を示す数字が表示され、録音の開始を促します。



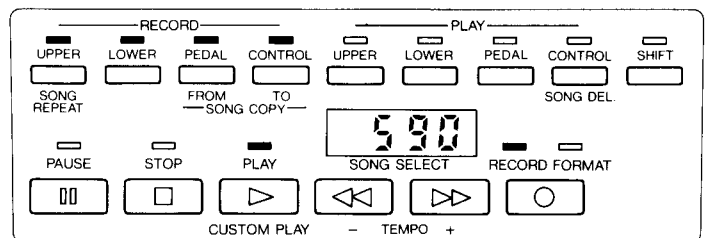
5 伴奏の録音を開始してください。

リズムを使用する場合は、メモリー残量が表示されてからスタートさせ、演奏を開始してください。リズムのイントロを先頭に入れておきますと、メロディーを録音する時に、スタートのタイミングがとりやすくなります。フィルイン・エンディングも必要に応じてお使いください。

HS シリーズの C.S.P./R.S.P. (HX シリーズではシーケンサー) に、リズム、コード、レジストレーションをあらかじめ記録しておき、それをディスクに記録することができます。

オートベースコードを使って伴奏を録音することもできます。

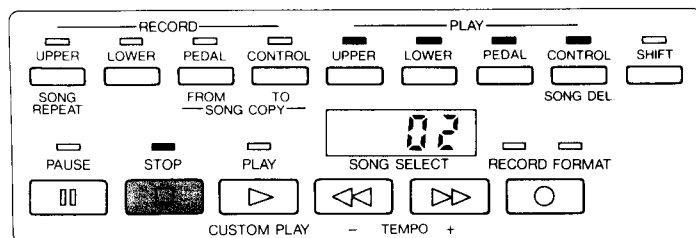
HS シリーズや HE シリーズで、C.S.P. 機能を使って録音する時、最初に使用するレジストを ON にしてから録音を開始してください。



6 録音が終了したら、**STOP**を押してください。

ストップ状態に戻り、デジタルディスプレイにはソングナンバーが表示されます。

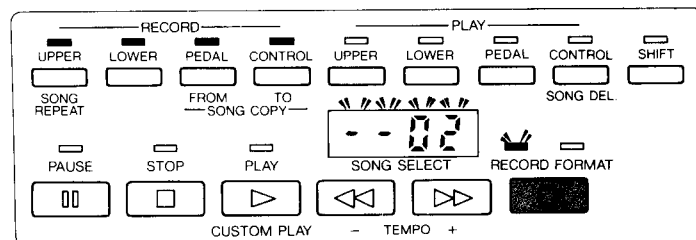
伴奏をやり直したい場合は、[レコード]ボタンを押し、同じ要領で最初から録音をおこなってください。ただし、録音を途中でやめてしまった場合は、デリート操作を行ってから、同じ要領で最初から録音を行ってください。(⇒21ページ)
また[ストップ]を押さずに、[プレイ]ボタンを押せば、リトライ機能によって録音のやり直しがより簡単に行えます。(⇒11ページ)



メロディー演奏を録音してみましょう

7 **RECORD** ボタンを押してください。

伴奏の録音が終わりましたら、[レコード]ボタンを押してください。すでに伴奏を録音していますから、デジタルディスプレイの左側に“—”が表示され、ソングナンバーとともに点滅し、注意を促します。

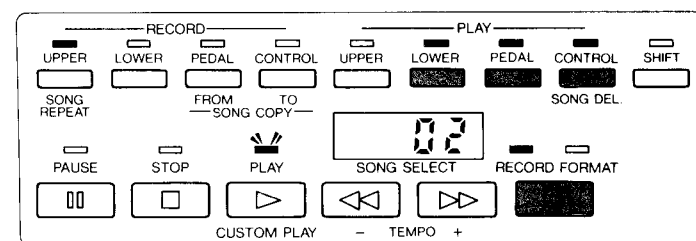


8 再度 **RECORD** ボタンを押し、プレイセクションの

すでに録音してある部分を再生させるため、プレイセクションの[ローワー] [ペダル] [コントロール]をONにします。同時に、レコードセクションの[ローワー] [ペダル] [コントロール]が自動的にOFFになります。

[レコード] ボタンを押した時、プレイセクションでONになっているパートは、録音中に再生させることができます。また、この状態の時、レコードセクションでは自動的にOFFになっており、演奏は録音されません。

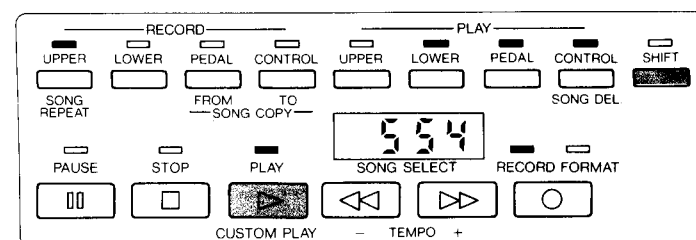
演奏セクションの**RECORD** ボタンを押してください。



9 **PLAY** ボタンを押しながら、**RECORD** ボタンを押してください。

すぐに、デジタルディスプレイにメモリー残量が表示され、すでに録音されたあるパートが再生されます。

[プレイ] ボタンのみを押して録音を開始しようとした場合は、レジストレーションなどのデータが再度記録されるため、メモリー残量表示になるまで待たなければなりません。[シフト]+[カスタムプレイ]ボタンを押すことで、すぐに録音を開始できる状態にすることができます。



10 上鍵盤を弾いて、メロディーの録音を開始してください。

再生されるパートを聴きながら、タイミングよくメロディー演奏を開始してください。リズムのイントロを録音しておいた場合は、まず、イントロが発音しますから、弾きはじめのタイミングをとってください。

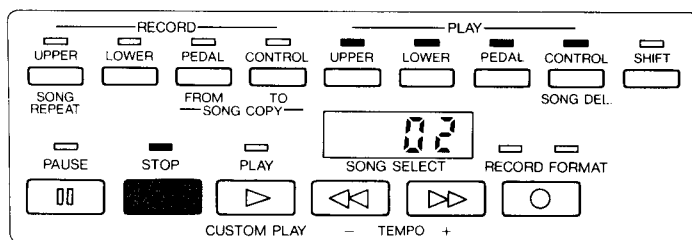
後から録音したパートの長さは、すでに録音したパートの長さになります。それよりも長いパートは録音できないようになっています。

メロディーの弾き直しを行いたい場合は、リトライ機能を使えば録音のやり直しがより簡単に行うことができます。(→ 11 ページ)

11 メロディーの録音が終了したら、^{ストップ} [STOP] ボタンを押してください。

ストップ状態に戻り、デジタルディスプレイにはソングナンバーが表示されます。この状態で[プレイ]を押せば、録音したパートをすべて再生することができます。

パート録音を行う場合、どのパートから録音してもかまいません。また、[ロー]と[ペダル]を別々に録音したり、[コントロール]でエクスペッションペダルやレジストレーションの切り替えなどを別に録音することもできます。



11-3 / レジストレーションデータを記録してみましょう

レジストレーションだけを記録する操作(RAM バックの代りとして使う場合)

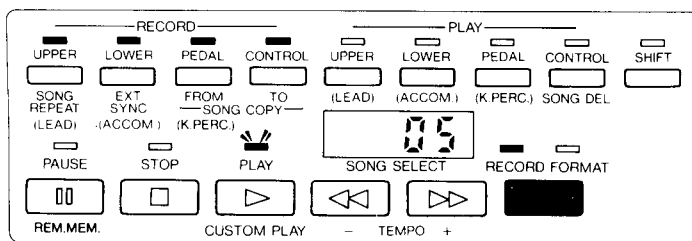
演奏の録音だけでなく、レジストレーションだけを記録することもできます。

1 MDR-3P に記録させたいレジストレーションなどのデータをエレクトーンにメモリーしてください。

MDR-3P に記録させたいレジストレーションなどの内容については、25 ページを参照してください。

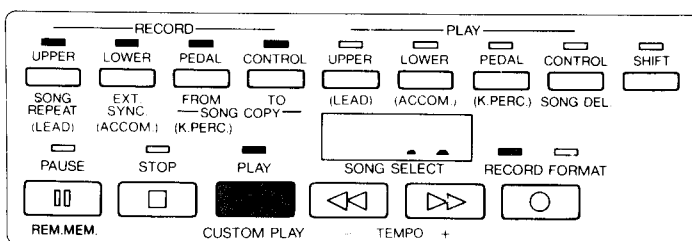
2 レジストレーションなどのデータを記録したいソングナンバーを選び、^{レコード} [RECORD] ボタンを押してください。

選択したソングナンバーに何らかのデータが記録されている場合は、デジタルディスプレイの左側 2 桁に“—”が表示され、ソングナンバーとともに点滅を始めますから、[ソングセレクト] ボタンによって、別のソングナンバーを選んでください。



3 ^{プレイ} [PLAY] ボタンを押してください。

[プレイ] ボタンを押しますと、デジタルディスプレイの“—”が走行を始め、レジストレーションなどのデータが記録されます。

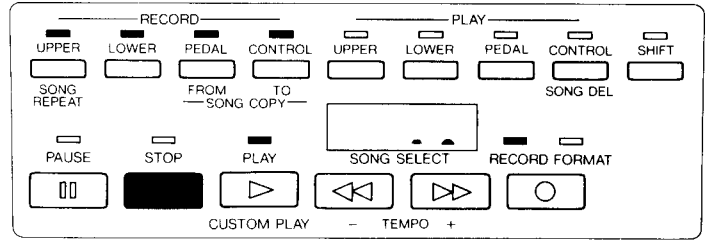


4 “-”マークが走行を始めたら ストップ [STOP] ボタンを押してください。

[ストップ] ボタンを押しますと、デジタルディスプレイに表示された

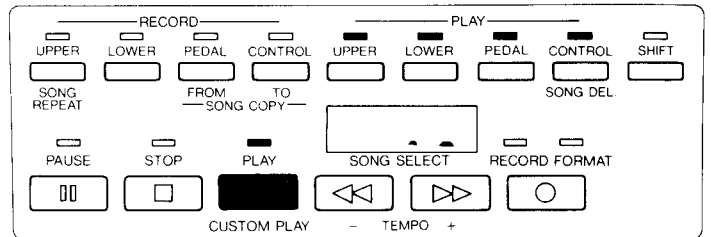
----- が点滅を始め、レジストレーションなどのデータが記録されつ

づけます。記録が終了すると、自動的にストップ状態に戻ります。



5 [MDR-3P に記録したレジストレーションをエレクトーンに読み込む操作]

レジストレーションなどのデータだけを記録したソングナンバーを選び、[プレイ] ボタンを押してください。デジタルディスプレイには“-”が左から右に走行しているのが表示され、記録したレジストレーションなどのデータがエレクトーンに読み込まれます。読み込みが終了するとストップ状態に戻ります。(これで、RAM パックからレジストレーションなどのデータを読み込んだ時と同じ状態になります。) 使用したいレジストレーションメモリのボタンを押して、演奏を始めてください。



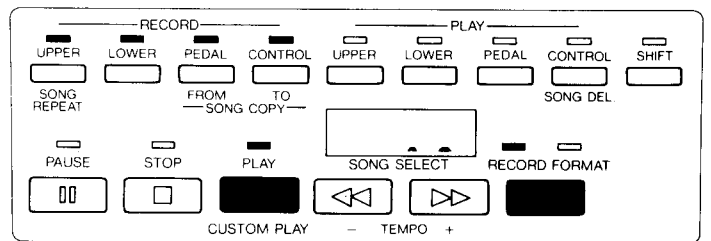
レジストレーションだけを差し替えたい場合の操作

録音を行った後、演奏データはそのままにしてレジストレーションのみを差し替えることもできます。

1 新たに差し替えたいレジストレーションなどのデータを、エレクトーンにメモリーしてください。

2 新たにレジストレーションの差し替えを行うソングナンバーを選び、 レコード [RECORD] ボタンを2回押し、次に プレイ [PLAY] ボタンを押してください。

デジタルディスプレイには“-”が走行し、以前に記録したレジストレーションなどのデータが消去され、新たにメモリーしたレジストレーションが記録されます。

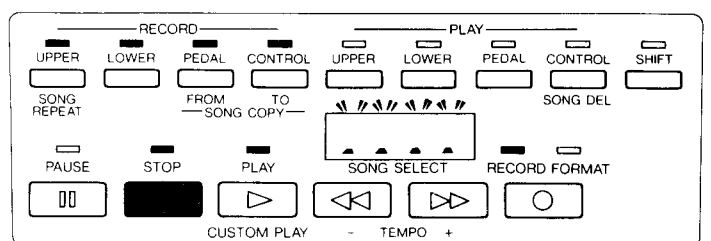


3 デジタルディスプレイがメモリー残量表示に変わる前に ストップ [STOP] ボタンを押してください。

デジタルディスプレイに“-”が走行している間に、[ストップ] ボタンを押して

ください。----- が点滅を始めますが、レジストレーションなどのデー

タは読み込まれています。読み込みが終了した時点で、自動的にストップ状態に戻ります。



-1 / 再生してみましょう

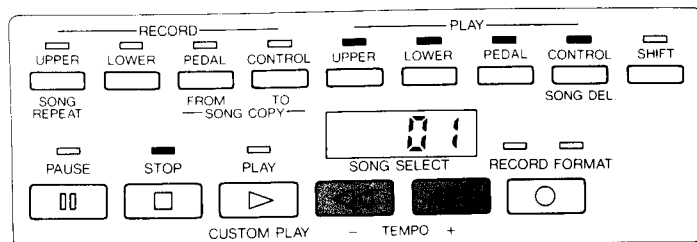
録音したエレクトーンの演奏を再生させたい時は、[プレイ]ボタンを押してください。また、レジストレーションなどのデータも再現されます。

1 再生させたい曲のソングナンバーを選んでください。

ソングナンバーは1番から16番まであり、[ソングセレクト]ボタンを押すことで、デジタルディスプレイ表示されるソングナンバーを選ぶことができます。

▶ [+]: 1回押すごとにソングナンバーが進みます。

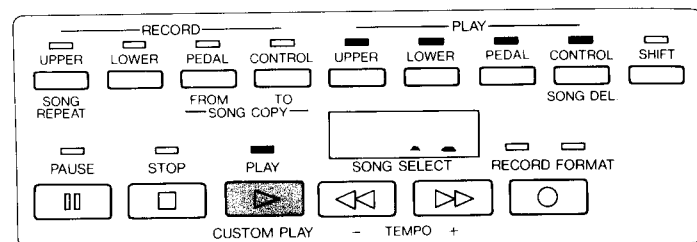
▶ [-]: 1回押すごとにソングナンバーが減っていきます。



ストップ状態の時は、プレイセクションのランプにより再生可能なパートが表示されます。電源を入れた直後では、[アッパー]から[コントロール]までのランプがすべてONになっており、通常のエレクトーン演奏の再生ができることを示します。

2 プレイ (PLAY) ボタンを押してください。

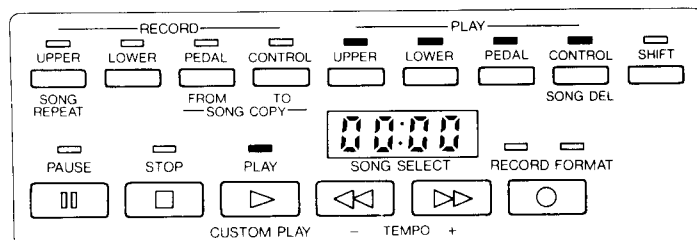
[プレイ]ランプが点灯し、まず、レジストレーションなどのデータがMDR-3Pからエレクトーンに読み込まれます。その間、デジタルディスプレイでは“-”左から右に走行し、確実に読み込みが行われていることを示します。



3 デジタルディスプレイに時間が表示され、演奏の再生がスタートします。

レジストレーションなどのデータの送信が終わったら、デジタルディスプレイに時間を示す数字が表示され、再生がスタートします。

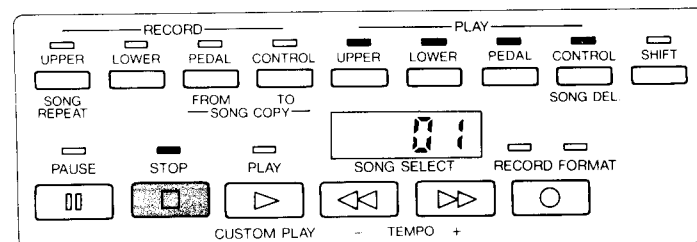
デジタルディスプレイに時間が表示されたら、すぐに演奏の再生が行われるとは限りません。録音した時、メモリー残量表示に切り替わってもすぐ演奏を始めなかった場合などは、遅れた分だけ再生のスタートが遅れることになります。



再生中は、絶対に電源をOFFにしない。
イジェクトボタンを押したりしないでください。

再生時のストップについて

演奏を最後まで再生すると、自動的に終了ストップ状態に戻ります。また、再生の途中でストップさせたい場合は、[ストップ]ボタンを押すことで、直ちにストップ状態に戻ります。

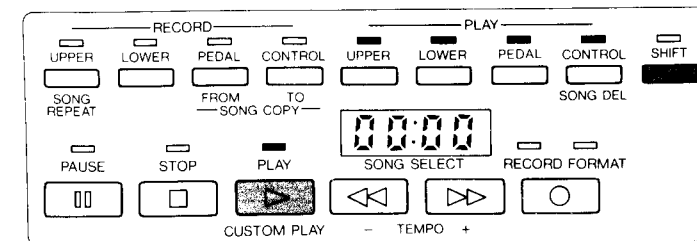


演奏だけを再生させたい場合=カスタム再生

レジストレーションなどのデータは再生させず、演奏だけを再生させたい場合は、[カスタム再生]機能により再生をスタートさせてください。

▶ 操作:[シフト]ボタンを押しながら、[カスタムプレイ]ボタンを押してください。

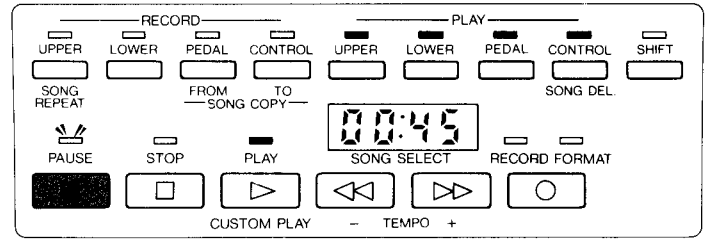
すぐにデジタルディスプレイが時間を表示し、演奏の再生がスタートします。一度、レジストレーションなどのデータをエレクトーンに送った後、同じ曲を繰り返し再生したい時などとても便利です。



再生時の一時停止について

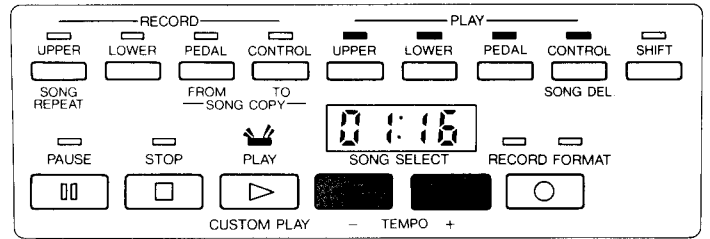
再生中に[ポーズ]ボタンを押しますと、再生を一時的に停止させることができます。その間は、[ポーズ]ランプが点滅し、デジタルディスプレイに表示される時間も進みません。

一時停止状態を解除したい場合は、[ポーズ]ボタンをもう一度押してください。一時停止させた時点から、再生がスタートします。



早送り/早戻し

再生中に[▶▶]を押すと早送りが[◀◀]を押すと早戻しができます。すると、再生が中断され、デジタルディスプレイの時間表示が早送りまたは早戻しされますので、再スタートさせたい時間が表示されるまで、ボタンを押しつづけてください。ボタンから指を離しますと、一時停止状態になりますから、[プレイ]ボタンを押してください。デジタルディスプレイに表示されている時間の位置から、再生がスタートします。



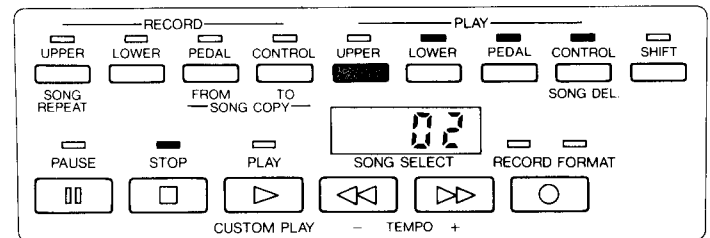
【早送り/早戻し】の速さは、通常の再生スピードの約5倍です。

-2 / 特定のパートだけ再生してみましょう(マイナスワン再生)

録音したパートの中から、特定のパートだけを再生させないで、その他のパートを再生させることができます。

1 再生させたいソングナンバーを選び、再生させたくないパートを OFF にしてください。

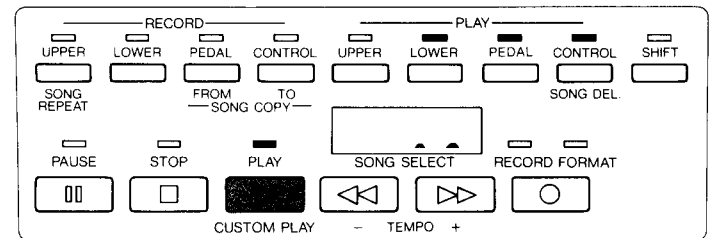
ストップ状態の時、プレイセクションの[アップパー]から[コントロール]までの中で、再生させたくないパートのボタンを押し、OFF にしてください。(右図は、[アップパー] を OFF にして、上鍵盤を再生させなくする場合)



再生させないようにするパートは、いくつでもかまいません。

2 ^{プレイ}[PLAY] ボタンを押してください。

[プレイ] ランプが点灯し、まず、レジストレーションなどのデータが MDR-3P からエレクトーンに送信されます。送信が終わったら、1 で OFF にしたパートがキャンセルされた状態で演奏がスタートします。



3 再生させなかったパートをエレクトーンで演奏してください。

録音されている演奏にあわせて、演奏してください。録音されている時間まで再生すると、再生は自動的に終了し、ストップ状態に戻ります。

III -3 / ディスクに録音した曲を繰り返し再生してみましょう

ディスクに録音したすべての曲、または特定の1曲を繰り返し再生させることができます。

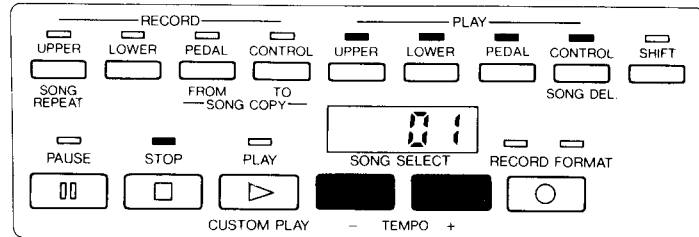
1 再生させたい曲のソングナンバーを選んでください。

まず、[ソングセレクト]ボタンを押し、ソングナンバーを選んでください。

▶ 全曲のリピート再生を行う場合: 1番目に再生させたい曲のソングナンバーを選んでください。

▶ 1曲のみのリピート再生を行う場合: リピート再生させたいソングナンバーを選択してください。

録音した曲のパートをリピート再生させることもできますので、必要に応じて各パートの[プレイ]ボタンを選んでください。

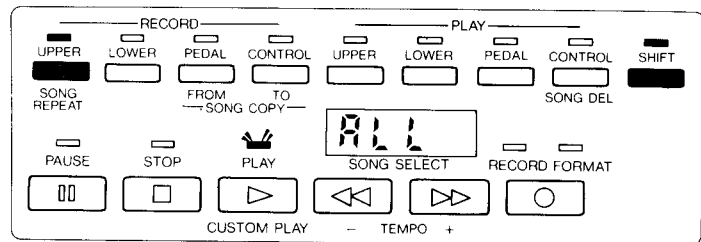


2-a ^{シフト}[SHIFT] ボタンを押しながら、同時に ^{ソングリピート}[SONG REPEAT] ボタンを押してください。

[シフト] と [ソングリピート] ランプが ON になり、デジタルディスプレイには

FILL が表示されます。

全曲のリピート再生を行いたい場合は、この状態で [プレイ] ボタンを押してください。

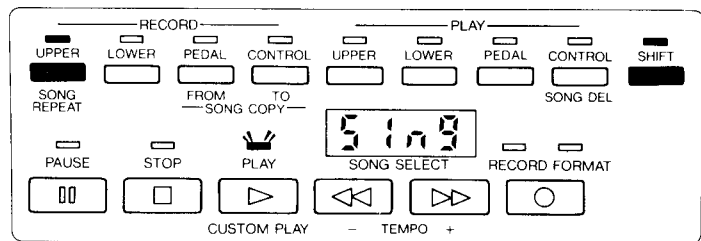


2-b 1 曲のみのリピート再生させる場合は、再度 ^{シフト}[SHIFT] ボタンを押しながら、^{ソングリピート}[SONG REPEAT] ボタンを押してください。

デジタルディスプレイの表示が **5 1 n 9** (シングル) に切り替わり、1

曲のみのリピート再生が行える状態になったことを示します。

リピート再生状態を解除したい場合は、[ストップ]ボタンを押してください。



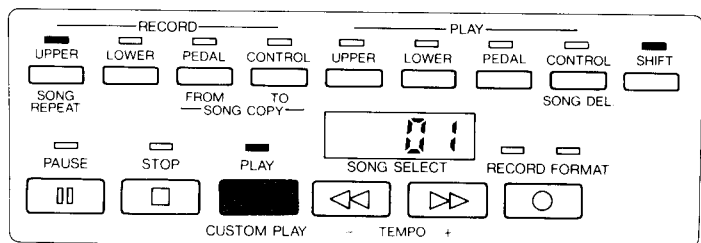
3 ^{プレイ}[PLAY] ボタンを押してください。

まず、再生を行うソングナンバーが表示され、レジストレーションなどのデータがエレクトーンに送信されます。送信中は、デジタルディスプレイに“-”が走行し、終了すると時間表示に切り替わり、演奏の再生がスタートします。

▶ 全曲のリピート再生を行った場合: 1曲目の再生が終了すると、2曲目のソングナンバーが表示され、レジストレーションなどのデータが送信された後、2曲目の再生がスタートします。以後は、データが記録されているソングナンバーのみをサーチし、順次再生していきます。

▶ 1曲のみのリピート再生を行った場合: 曲の終わりまで再生すると、同一のソングナンバーが表示され、レジストレーションなどのデータが再度送信されてから、再生を繰り返します。

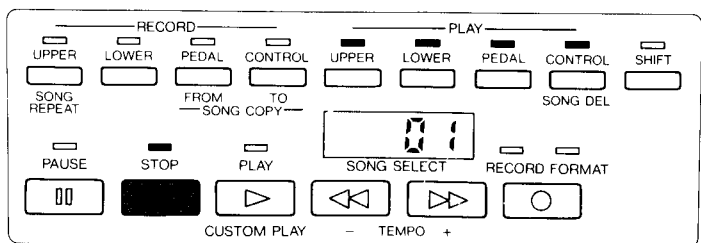
すでに、レジストレーションなどのデータがエレクトーンに送信済みの時は、[カスタム プレイ] ボタンを押すことで、レジストレーションなどのデータをもう一度送信する必要なしに、繰り返し再生することができます。



4 ^{ストップ}[STOP] ボタンを押してください。

リピート再生をストップさせたい時は、[ストップ]ボタンを押してください。ストップ状態に戻ります。

1曲のみのリピート再生を行った時、選んだソングナンバーにデータが記録されていない場合や、全曲のリピート再生を行った時、ディスクに1曲もデータが記録されていない場合は、**0000** を表示してからストップ状態に戻ります。



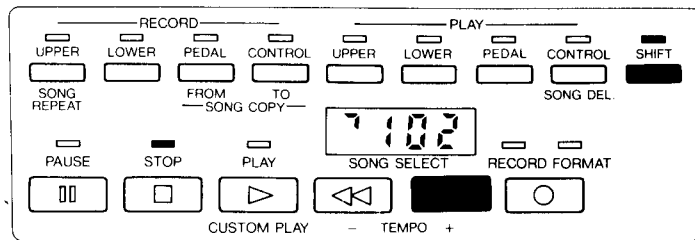
-4 / その他のコントロール機能を紹介します

再生時のテンポを変えてみましょう

録音した曲のテンポを自由に変更して再生することができます。

テンポを変更する操作

- ▶テンポを速くする操作:[シフト]ボタンを押しながら[テンポ+]を押してください。
- ▶テンポを遅くする操作:[シフト]ボタンを押しながら[テンポ-]を押してください。



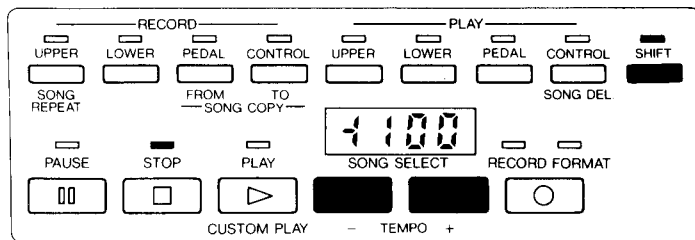
デジタルディスプレイの左端の意味

7: 録音時より速い 7: 録音時と同じテンポ 7: 録音時より遅い

テンポ変更の操作を行うと、少しの間だけ、デジタルディスプレイに数字が表示されますが、この数字は、録音した時のテンポを「100」とした場合のパーセンテージを示すものです。テンポを変更できる範囲は、約50～200%です。また、テンポの変更によって、再生される音程が変わることはありません。

録音した時のテンポに戻す操作

再生時にテンポを変更した場合、録音時のテンポに戻すには、[シフト]ボタンを押しながら、[テンポ+]と[テンポ-]を同時に押してください。デジタルディスプレイに「7 100」が表示され、録音時のテンポに戻ったことを示します。



テンポ変更した場合は、ソングナンバーを変更しても解除されません。電源を切るか上記の操作を行ってください。

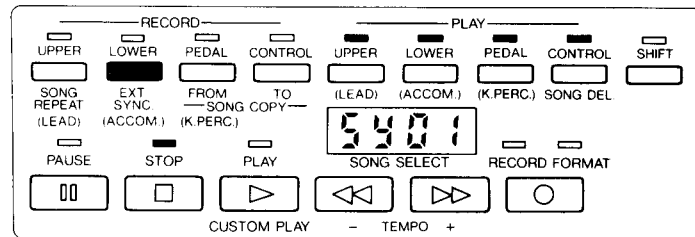
外部に接続する機器のモードに合わせる操作

電源を入れた直後の状態では、MDR-3Pのみに適合するモードになっています。リズムシーケンサーなどを接続し、そのテンポにMDR-3Pを同期させたい場合などには、以下の操作を行ってください。

- ▶外部に接続する機器のモードに切り替える操作:[エキスターナルシンクロ](レコードセクションの[ロー])を押しながら、電源を入れてください。

外部に接続する機器のモードに切り替えた状態で、MDR-3P単独での録音/再生を行いますと、テンポがずれることがありますので、上記の操作は行わないでください。

(MDR-3Pで録音した演奏を、録音時と同じテンポで再生したい場合は、録音時にMIDIクロックを送信する機器のテンポを♩=156とします。)



POWER ON/OFF

外部同期モードに切り替えますと、MDR-3Pは、接続した機器のMIDIクロックに適合して録音/再生をおこなうようになります。(MEシリーズではサポートしていません。)

MDR-3Pのみのモードに戻したい場合は、電源をいったんOFFにしてください。

再生のスタート/ストップをエレクトーン側でコントロールする操作

以下の操作をエレクトーンで行いますと、MDR-3Pで[プレイ]ボタンを押した時と同様に、[プレイ]がONになり、レジストレーションなどのデータが送信された後、再生がスタートします。

- ▶HSシリーズ:マルチメニュー10番の面を出し、[エキスターナル/MIDIコントロール]を押しながら、一番左にある[リード/ディレイ]を押してください。
- ▶HXシリーズ:マルチメニューでエキスターナルコントロールを選び、サブデータコントロールの[1]を押してください。

再生を途中でストップさせたい場合は、以下の操作を行ってください。MDR-3Pで[ストップ]ボタンを押した時と同様に、ストップ状態に戻ります。

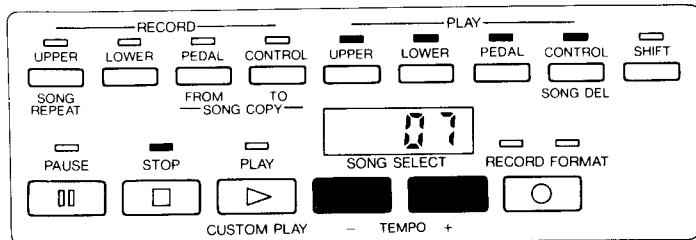
- ▶HSシリーズ:[エキスターナル/MIDIコントロール]を押しながら、一番左から2番目にある[リード/デプス]を押してください。
- ▶HXシリーズ:サブデータコントロールの[2]を押してください。

IV-1 / すでに記録したデータを別なソングナンバーにコピーしてみましょう

あるソングナンバーに記録したデータを別なソングナンバーにコピーすることができる、ソングナンバー機能が付いています。ここでは、ソングナンバー7のデータをソングナンバー9にコピーする例をみていきましょう。

1 ソングセレクト (SHIFT) [SONG SELECT] ボタンで、コピー元のソングナンバーを選んでください。

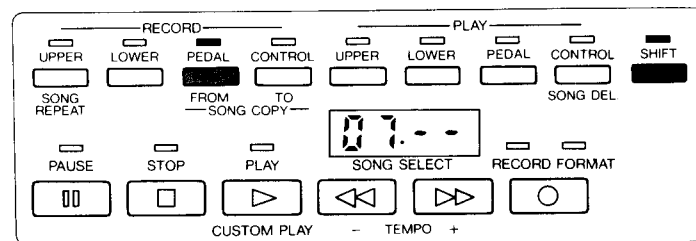
コピーしたいデータが記録されているソングナンバーを[ソングセレクト]ボタンで、デジタルディスプレイに表示させてください。



特定のパートを録音し直したい時など、録音済みの演奏データを別のソングナンバーにコピーしておくことで、元の演奏データを保存しておくことができます。

2 シフト (SHIFT) [SONG COPY FROM] ボタンを押しながら、ソングコピー元 (SHIFT) [SONG COPY FROM] ボタンを押してください。

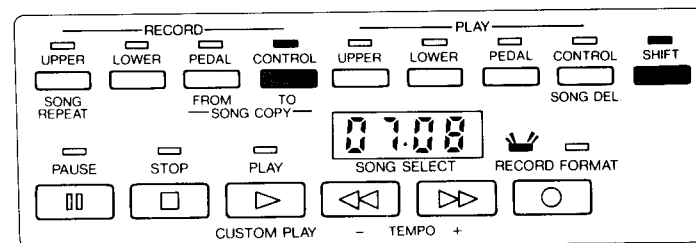
デジタルディスプレイの左側2桁にコピー元のソングナンバーが表示されます。また、右側2桁には“--”が表示され、コピー先がまだ指定されていないことを示します。



1. で選んだソングナンバーにデータが記録されていない場合は、データが記録されている次のソングナンバーが自動的に選ばれて表示されます。

3 シフト (SHIFT) [SONG COPY TO] ボタンを押しながら、ソングコピー先 (SHIFT) [SONG COPY TO] ボタンを押してください。

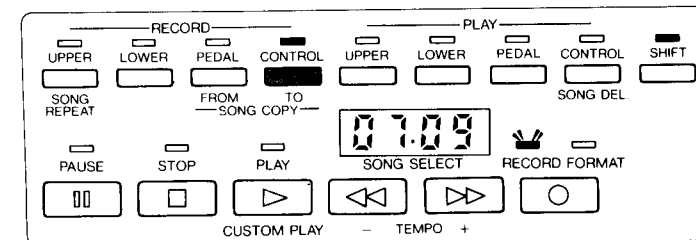
デジタルディスプレイの右側2桁には、データが記録されていないソングナンバーが自動的に選ばれ、コピー先が表示されます。



すべてのソングナンバーにデータが記録されている場合は、デジタルディスプレイに **FULL** が表示されます。ソングコピーは行えませんが、いったん[ストップ]ボタンを押し、ソングディリットにより不要なソングナンバーのデータを解除してください。(→ 21 ページ)

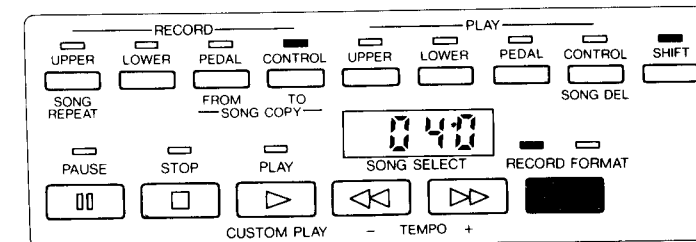
4 ソングセレクト (SHIFT) [SONG SELECT] ボタンで、コピー先のソングナンバーを選んでください。

コピー先のソングナンバーを変更したい場合は、[ソングセレクト]を操作してください。データが記録されていないソングナンバーのみが自動的に選ばれます。



5 レコード (RECORD) [RECORD] ボタンを押してください。

[レコード]ランプが点滅から点灯に変わり、ソングコピーが開始されます。デジタルディスプレイには、コピー元の容量が表示され、ソングコピーの進行に従って減少していきます。表示される数字が **000** になると、ソングコピーは終了し、自動的にストップ状態に戻ります。



ソングコピーを行った時、ディスクのメモリー残量が不足している場合は、デジタルディスプレイに“FULL”が表示され、ソングコピーは行われません。

IV-2 / すでに記録したデータを削除してみましょう

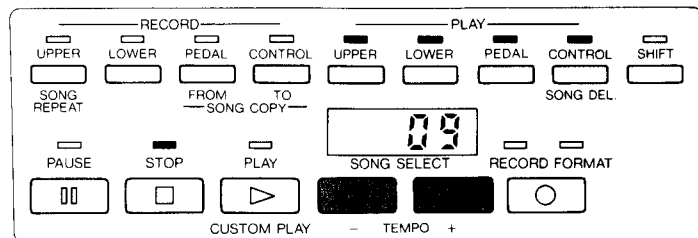
あるソングナンバーに記録したデータが不要になった場合は、以下の操作によって削除することができます。

ここでは、ソングナンバー 9 のデータを削除する例をみてみましょう。

1 ソングレコーズ (SONG SELECT) ボタンで、削除するソングナンバーを選んでください。

削除したいデータが記録されているソングナンバーを、[ソングセレクト]によって、デジタルディスプレイに表示させてください。

ディスクの容量が無くなったり不足している場合は、ソングコピーが行えませんので、不要のデータが記録されているソングナンバーを選んで、以下の操作を行ってください。

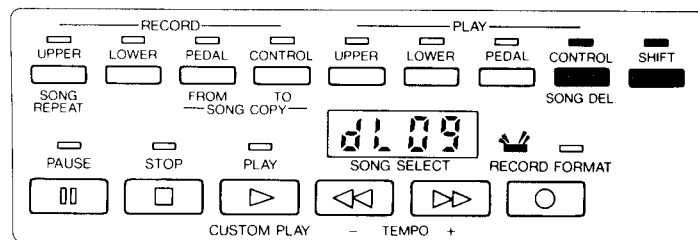


2 レコーズ (RECORD) ボタンを押しながら、レコーズ (RECORD) ボタンを押してください。

デジタルディスプレイの左側 2 桁には「dL」(デリート) が表示され、右側 2 桁には 1 で選んだソングナンバーが表示されます。また、[レコード]ランプは点滅を始めます。

2 の操作を行った後でも、[ソングセレクト]で削除するソングナンバーを選び直すことができます。

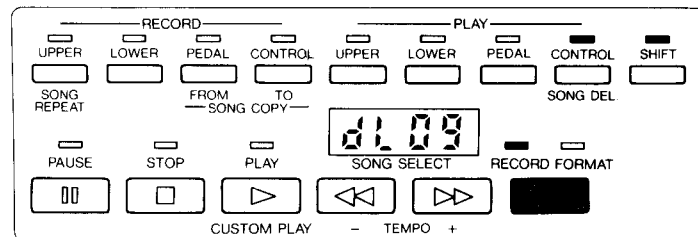
記録したデータの削除を中止したい場合は、[ストップ]ボタンを押してください。



3 レコーズ (RECORD) ボタンを押してください。

[レコード]ランプが点滅から点灯に変わり、データの削除が開始されます。終了しますと、[レコード]ランプが消え、自動的にストップ状態に戻ります。

データの削除を続けて行いたい場合は、1 ~ 3 の操作を繰り返してください。



IV-3 / メモリー残量の確認をしてみましょう

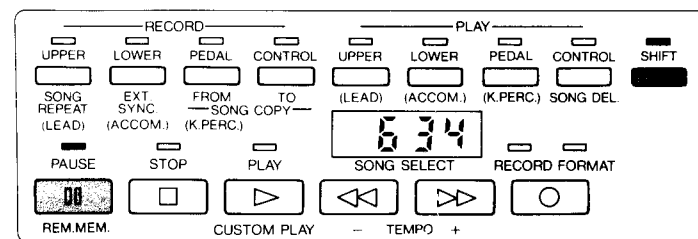
ストップ状態の時、以下の操作を行うことで、ディスクのメモリー残量を、デジタルディスプレイ表示で確認することができます。

※パネル面には付属の補助シートが貼付されています。

1 レコーズ (RECORD) ボタンを押しながら、レコーズ (RECORD) ボタンを押してください。

メモリー残量は、ボタンを押している間のみ、デジタルディスプレイに表示されます。

メモリー残量は最大(何も録音されていないディスク)で **634** で、録音量にしたがい数字は **000** まで減少していきます。



V-1 / リードボイスによるオブリガートのパート録音をしてみましょう

※パネル面には付属の補助シートが貼付されています。

1 エレクトーンの上鍵盤で、リードボイスが発音するようにセットしてください。

アッパーアンサンブルのリードを ON にし、リードボイスの音色とボリュームをセットしてください。また、レジストレーションメモリーにレジストレーションを記憶させてください。

2 リードボイスの受信チャンネルを分離する操作を行ってください。

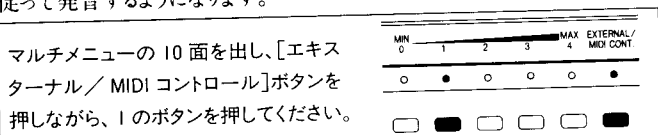
エレクトーンで下記の操作を行い、リードボイスの受信チャンネルを分離してください。

リードボイスを上鍵盤(または下鍵盤)の音色としてセットする通常の録音では、下記の操作は必要ありません。

リードボイスを受信チャンネルの分離操作を行って録音した場合は、再生時にも分離操作を行うことが必要です。

リードボイスの受信チャンネル分離操作

★ HS シリーズ：MDR-3P から MIDI 信号を受信している時、リードボイスは上鍵盤(1チャンネル)で受信した演奏データに従って発音しますが、下記の操作を行うと、4チャンネルで送信されてくる演奏データに従って発音ようになります。

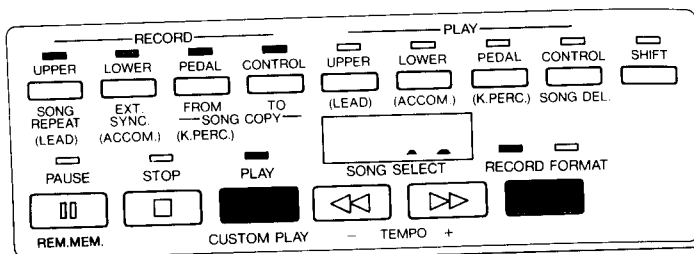


★ HX シリーズ：MDR-3P で演奏を録音 / 再生する場合、下記の操作を行うと、上下の鍵盤の演奏とは別に、リード音色だけの演奏を送 / 受信させることができます。

MIDI コントロールベーシックチャンネル機能で、[4 . LEAD] の [IN] を [4] に設定してください。

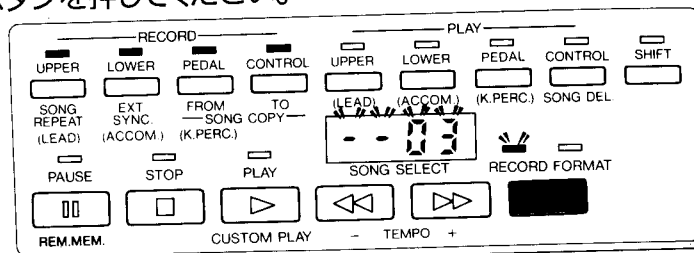
3 ほかのパートを先に録音してください。(→ 10 ~ 14 ページ)

[レコード] を ON にした後、[プレイ] を ON にして、リードボイス以外のパートを録音してください。この時、リードボイスは、受信チャンネルが分離されているため、発音しません。録音が終了したら、[ストップ] ボタンを押してください。



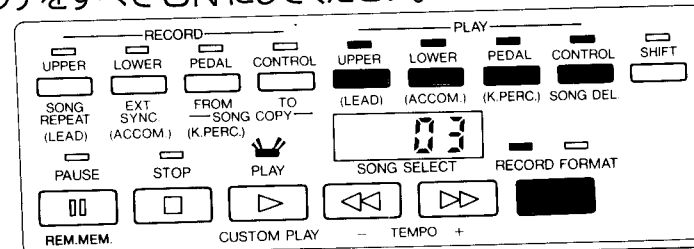
4 リードボイスによる演奏を録音するため、レコード (RECORD) ボタンを押してください。

すでに、ほかのパートが録音されていますから、デジタルディスプレイに“—”が表示され、ソングナンバーとともに点滅します。



5 再度レコード (RECORD) ボタンを押し、プレイセクションのスイッチをすべて ON にしてください。

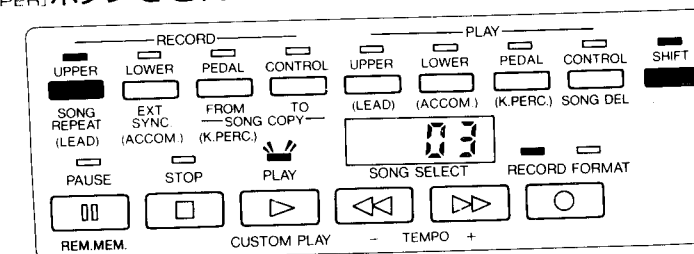
[レコード] を ON にしたら、録音済みのパートをリードボイスによる演奏の録音中に再生させるため、プレイセクションの全パートを ON にしてください。その時、レコードセクションの全パートは自動的に OFF になります。



6 シフト (SHIFT) ボタンを押しながら、レコードセクションの アッパー (UPPER) ボタンを ON にしてください。

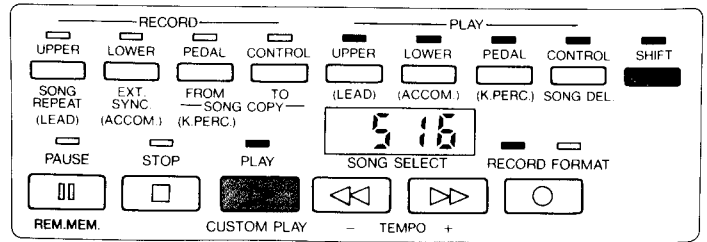
上記の操作を行いますと、エレクトーンの上鍵盤の演奏データが [アッパー] とは別のチャンネルに変換され、MDR-3P に記録されるようになります。

録音を開始する前に、上鍵盤を押さえて、リードボイスが発音するところを確認してください。



7 カスタム録音によって、上鍵盤で弾くリードボイスの演奏を録音してください。

[シフト]+[カスタムプレイ]で録音を開始すると、録音済みのパートの再生がすぐに始まりますので、再生される演奏を聴きながら、上鍵盤でのオブリアートなどを演奏してください。上鍵盤とは別にリードボイスの演奏が録音されます。演奏が終了したら[ストップ]ボタンを押してください。



V-2 / アルペジオコードの音色によるパート録音をしてみましょう

1 HSシリーズの下鍵盤で、アルペジオコードが発音するようにセットしてください。

アルペジオコードの音色とボリュームをセットしてください。また、レジストレーションメモリーにレジストレーションを記憶させてください。

2 HSシリーズで、アルペジオコードの受信チャンネルを分離する操作を行ってください。

下記の操作を行い、アルペジオコードの受信チャンネルを分離してください。

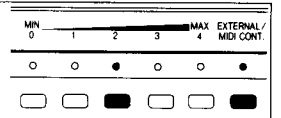
アルペジオコードを下鍵盤の音色としてセットする通常の録音では、下記の操作は必要ありません。

アルペジオコードを受信チャンネルの分離操作を行って録音した場合は、再生時にも分離操作を行うことが必要です。

アルペジオコードの受信チャンネルの分離操作

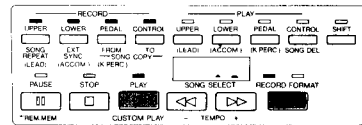
★ HSシリーズ：MDR-3P から MIDI 信号を受信している時、アルペジオコードは下鍵盤（2チャンネル）に従って発音しますが、下記の操作を行うと、5チャンネルで送信されてくる演奏データに従って発音ようになります。

マルチメニューの10面を出し、[エクスターナル/MIDIコントロール]ボタンを押しながら、2のボタンを押してください。



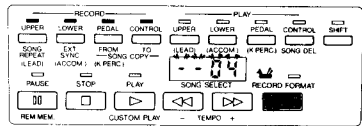
3 ほかのパートを先に録音してください。(→10～14ページ)

[レコード]をONにした後、[プレイ]をONにして、アルペジオコード以外のパートを録音してください。この時、アルペジオコードは、受信チャンネルが分離されているため、発音しません。録音が終了したら、[ストップ]ボタンを押してください。



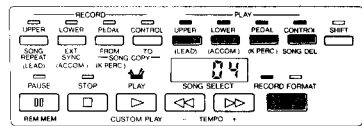
4 アルペジオコードの音色による演奏を録音するため、[カスタムプレイ]ボタンを押してください。

すでに、ほかのパートが録音されていますから、デジタルディスプレイに“-”が表示され、ソングナンバーとともに点滅します。



5 再度 [レコード] ボタンを押し、プレイセクションのスイッチをすべてONにしてください。

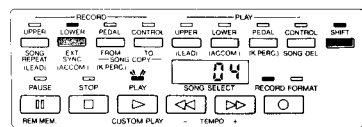
[レコード]をONにしたら、録音済みのパートをアルペジオコードの音色による演奏の録音中に再生させるため、プレイセクションの全パートをONにしてください。その時、レコードセクションの全パートは自動的にOFFになります。



6 [シフト] ボタンを押しながら、レコードセクションの [レコード] ボタンをONにしてください。

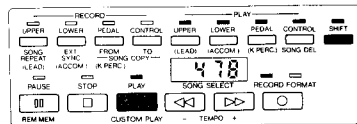
上記の操作を行いますと、エレキの下鍵盤の演奏データが[ロー]とは別のチャンネルに変換され、MDR-3Pに記録されるようになります。

録音を開始する前に、下鍵盤を押さえて、アルペジオコードの音色が発音することを確認してください。



7 カスタム録音によって、下鍵盤で弾くアルペジオコードの演奏を録音してください。

[シフト]+[カスタムプレイ]で録音を開始すると、録音済みのパートの再生がすぐに始まりますので、再生される演奏を聴きながら、下鍵盤を弾いてください。下鍵盤とは別にアルペジオコードの演奏が録音されます。演奏が終了したら[ストップ]ボタンを押してください。



V-3 / キーボードパーカッションによるリズムのパート録音をしてみましょう

1 エレクトーンでキーボードパーカッションを録音するための設定を行ってください。

まず、エレクトーンで下記の操作を行ってください。

ベーシックなリズムパターンはリズム機能によって記録し、バリエーションパターンのみをキーボードパーカッションで録音する場合は、あらかじめベーシックなリズムパターンを作成し、R.S.P.(HX シリーズはシーケンサー)にプログラムしてください。

2 [RECORD] ボタンを押し、[SHIFT] を押しながらレコードセクションの [PEDAL] を ON にしてください。

[レコード]をONにしたら、キーボードパーカッションの演奏を録音するための設定を行います。[シフト]を押しながら、レコードセクションの[ペダル]をONにしてください。

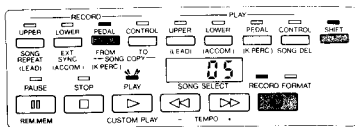
★ HS シリーズ

- ▶ キーボードパーカッションをONにします。
- ▶ キーボードパーカッション以外の音群については、特に気にしなければ、OFFにする必要はありません。

★ HX シリーズ

- ▶ キーボードパーカッションをONにします。
- ▶ キーボードパーカッション以外の音群については、特に気にしなければ、OFFにする必要はありません。
- ▶ ベーシックチャンネル機能で、[LK]の[OUT]をOFFに設定することで、下鍵盤の演奏情報は送信されなくなります。

上記の操作を行うと、下鍵盤とペダル鍵盤の演奏データが、[ロー] [ペダル]とは別のチャンネルに変換され、MDR-3Pに記録されるようになります。



3 カスタム録音によって、キーボードパーカッションの演奏を録音してください。

HS シリーズでは、下鍵盤を弾いてキーボードパーカッションの演奏を録音してください。HX シリーズでは、キーボードパーカッションアサインによってリズム楽器を割り当てたキーを弾いてください。

リズムパターンをプログラムしてリズムを一緒に記録する場合は、リズムをスタートさせ、キーボードパーカッションの音を必要な箇所が発音させてください。



4 エレクトーンで、ほかのパートを録音するための設定を行ってください。

キーボードパーカッションの録音が終了したら、エレクトーンでほかのパートを録音するために、下記の操作を行ってください。

★ HS シリーズ ▶ キーボードパーカッションをOFFにします。

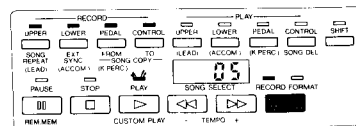
▶ キーボードパーカッション以外の音群をONにします。

★ HX シリーズ ▶ キーボードパーカッションをOFFにします。

▶ キーボードパーカッション以外の音群をONにします。

▶ ベーシックチャンネル機能で、[LK]の[OUT]を2に戻します。

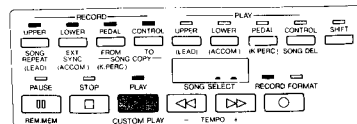
5 [RECORD] ボタンを2回押してください。



6 [PLAY] を押して、ほかのパートを録音してください。

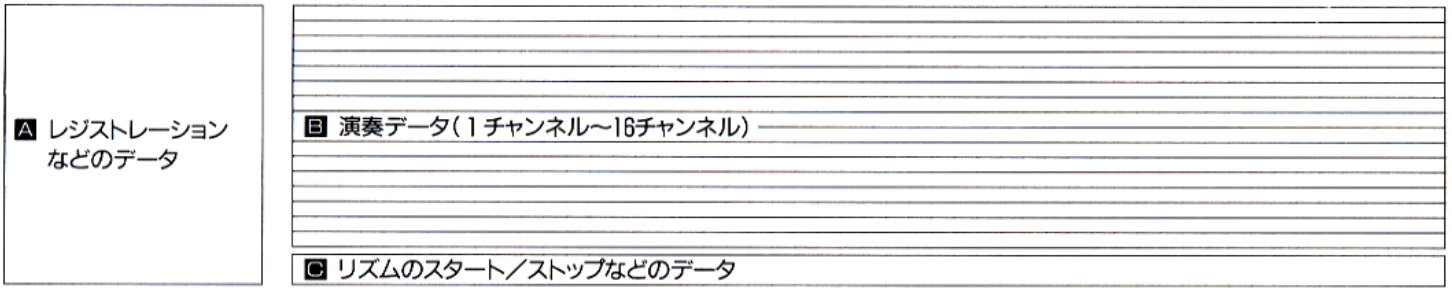
レジストレーションなどのデータを記録し、すでに録音したリズムを聴きながら、キーボードパーカッション以外のパートを録音してください。

キーボードパーカッションによる演奏を録音した曲を再生させると、エレクトーンのパネルではキーボードパーカッションがOFFになりますが、録音したキーボードパーカッションの演奏は再生されます。



記録される内容とチャンネル

下図は、通常の録音を行った時に記録される内容を図式化したものです。



Aに記録される内容=レジストレーションなどのデータ

通常の録音ではその時エレクトーンが記録しているレジストレーションなどのデータ(バルクデータ)が最初に記録されます。カスタム録音では、このレジストレーションなどのデータは記録されません。エレクトーンHSシリーズまたはHXシリーズを使用した場合に記録される内容は、下記のとおりです。

●レジストレーションメモリーに記憶させたデータ	*1
●R.S.P./C.S.P.(HSシリーズ)、シーケンサー(HXシリーズ)のデータ	
●リズムユーザーパターン、リズムミックユーザーパターン(HSシリーズ)のデータ	
●ユーザーボイスのデータ	
●F.M.P.のデータ(HSシリーズ)	*2
●キーボードパーカッションアサインのデータ(HXシリーズ)	
●カレントレジストレーションデータ	*3

- *1: HXシリーズでは、レジストレーションメモリーに記憶されないレジストレーションデータ(ヒブラート、コンピューターボイス、エフェクターなど)も記録。
- *2: HSシリーズで、マルチメニュー10番の面を出し、[エキスターナル/MIDIコントロール]+[アッパーオーケストラルデプス]の操作を行えば、F.M.P.のデータを送信しない状態に切り替えることができる。この操作を行ってから録音を開始すれば、レジストレーションなどの記録に要する時間が短縮される。
- *3: 録音開始時にパネルでセットしているレジストレーションのデータは、レジストレーションメモリーとは別に記録される。なお、このデータのみは、カスタム録音時にも記録され、カスタム再生時にも再現される。

Bに記録される内容=演奏データ

どの音をどのくらいの強さでONにし、いつOFFにしたかといった基本的な演奏データ、およびエクスプレッションペダルなどのコントロールデータはBに記録されます。HSシリーズ、HXシリーズを使用した場合、MDR-3Pの各パートに記録される演奏データの内容は、下表のようになります。

●Bに記録されるデータは、MIDIチャンネルメッセージと呼ばれるもので、エレクトーンの各鍵盤(パート)の演奏データは異なるチャンネルで送信され、MDR-3Pは、それらを下表のチャンネルで記録します。(コントロールのパートには、エクスクルーシブメッセージも記録。)

記録パート	記録される内容		記録CH
[アッパー]	上鍵盤の演奏データ(キーのON/OFF、アフタータッチ、サステインのON/OFF)	*1	1
[ローワー]	下鍵盤の演奏データ(キーのON/OFF、アフタータッチ、サステインのON/OFF)	*1	2
[ペダル]	ペダル鍵盤の演奏データ(キーのON/OFF、アフタータッチ、サステインのON/OFF)	*1	3
[コントロール]	エクスプレッションペダル、レジストレーションメモリーの切り替えなどのコントロールデータ <small>MDR-3PのコントロールボタンがOFFの場合は録音/再生されません。</small>	*2	16
[シフト]+[アッパー]	リードボイスの演奏データ(キーのON/OFF、アフタータッチ)	*3	4
[シフト]+[ローワー]	アルペジオコード(HSシリーズ)の演奏データ(キーのON/OFF、アフタータッチ)	*4	5
[シフト]+[ペダル]	キーボードパーカッションの演奏データ(キーのON/OFF)	*5	15

- *1: HSシリーズでは、レジストレーションメモリーの切り替えデータも記録。
- *2: フィルイン、イントロ/エンディング、フットスイッチ、ニーレバー、テンポ、およびパネルのスイッチの切り替えデータなどのエレクトーン用エクスクルーシブメッセージも記録。
HS-8およびHXシリーズを使用した場合は、モジュレーションホイール、セカンドエクスプレッションペダル、ピッチホイールのコントロールデータも記録。
- *3: 受信した上鍵盤の演奏データ(1チャンネル)を4チャンネルに変換して記録。4チャンネルの信号を受信した場合は、そのまま記録。
- *4: 受信した下鍵盤の演奏データ(2チャンネル)を5チャンネルに変換して記録。5チャンネルの信号を受信した場合は、そのまま記録。
- *5: 受信した下鍵盤とペダル鍵盤の演奏データ(2チャンネルと3チャンネル)を15チャンネルに変換して記録。15チャンネルの信号を受信した場合は、そのまま記録。

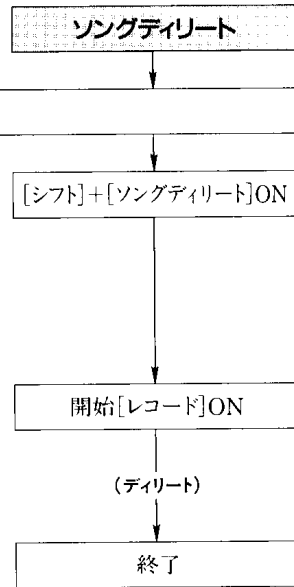
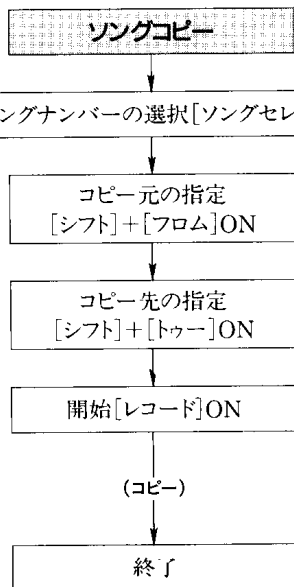
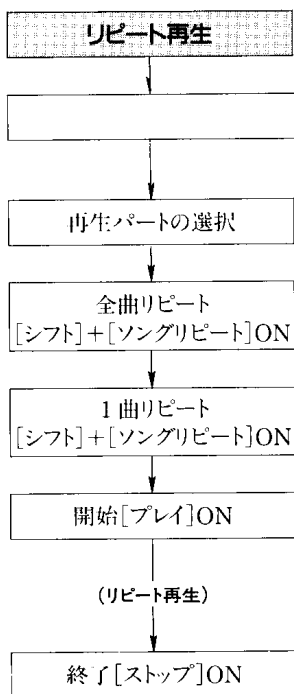
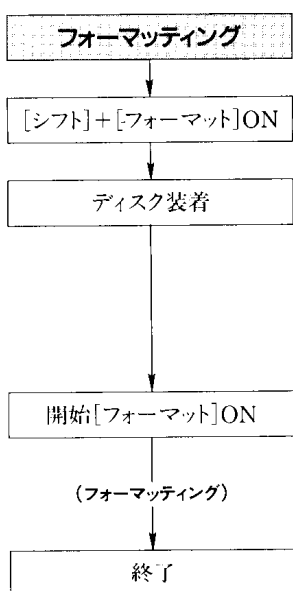
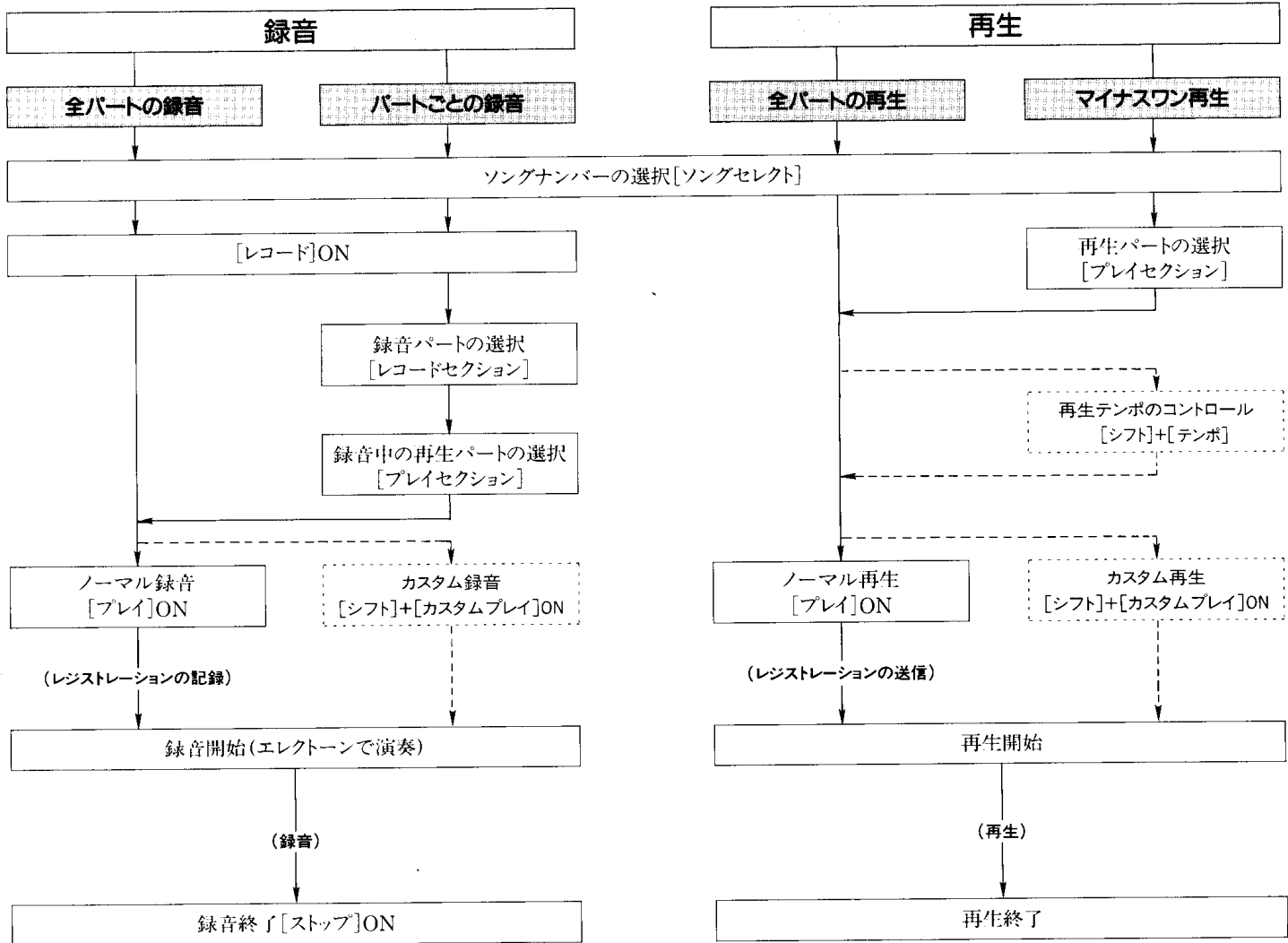
Cに記録される内容=リズムのスタート/ストップなどのデータ

リズムのスタート/ストップなどのデータ(リアルタイムメッセージ)は、Cとは別に記録されます。

●リズムのスタート/ストップ	*1
●クロック	*2

- *1: HSシリーズのC.S.P./R.S.P.、HXシリーズのシーケンサーのスタート/ストップも記録。
- *2: クロック(FBH)は、1回目の録音時のみ記録する。
- リズムのスタート/ストップ、およびB~14チャンネルのデータは、1回目の録音時に記録され、2回目以降は書き換えられない。ただし、B~14チャンネルのデータは、Cの録音パートをすべてOFFにした時のみ書き換えが可能。

操作チャート



故障かなとお考えになる前に

下記のような現象は、故障ではありませんのでご注意ください。

現象	原因と解決法
録音・再生ができない。	①不適切な操作、電源の不適合などにより、録音・再生ができない場合があります。 7ページの“表示の意味を知りましょう”を参照してください。 ②録音・再生のパートを選ぶスイッチがOFFになっているため。該当スイッチをONにしてください。 ③再生するエレクトーンを受信チャンネルとMDR-3Pに記録されているチャンネルが異なっているため。エレクトーンを受信チャンネルの設定を確認してください。
16曲まで録音できない。	ひとつのソングに記録したデータが多い場合は、メモリー残量が無くなり、16曲まで録音できないことがあります。
録音の途中でストップしてしまう。または、ソングコピーが行われない。	すでに、メモリー容量のいっぱい近くまでデータを記録しているため。別のディスクを使用するか、不必要なソングを削除してください。(→21ページ) 録音し直した場合、前に録音した時間より長い時間を録音することはできません(→11ページ)
再生される演奏が、録音時と異なる。	録音に使用するエレクトーンの機種によっては、もともとMIDIデータとして送信しない機能もあります。HSシリーズ、HXシリーズ以外のエレクトーンで録音する場合は、それぞれのMIDI仕様をご確認ください。
上鍵盤または下鍵盤の演奏とは別に、リードボイスまたはアルペジオコード(HSシリーズ)の音色による演奏が録音できない。または再生できない。	①録音時に、[レコード]をONして、[シフト]を押しながらレコードセクションの[アッパー]または[ロー]をONにする操作を行わなかったため。 ②リードボイスまたはアルペジオコードを受信チャンネルを分離する操作を行わなかったため。そのほかにも原因が考えられますので、操作方法を確認してください。(→22-23ページ)
キーボードパーカッションの演奏が録音されない。または、別のリズム音が録音されてしまう。	録音時に、[レコード]をONして、[シフト]を押しながらレコードセクションの[ペダル]をONにする操作を行わなかったため。そのほかにも、原因が考えられますので、操作方法を再確認してください。(→24ページ)
録音開始時にリズムがスタートしない。または、スタートさせていたリズムがストップしてしまう。	設計上の理由から、録音開始時にリズムがスタートしていた場合は、ストップさせるようになっています。リズムを使用する場合は、デジタルディスプレイの表示がメモリー残量に切り替わった後でスタートさせてください。
早送り、早戻しをしたら、リズムと演奏のタイミングがずれてしまった。	HSシリーズ、HXシリーズ以外のエレクトーンでは、早送り、早戻しを行わないようにしてください。
再生させていたエレクトーンの音が鳴りっぱなしになった。	再生中にパワースイッチをOFFにしたり、イジェクトを押してディスクを取り出したため。再生ストップは必ず[ストップ]スイッチで行ってください。
エレクトーン以外の機器で再生したら、音が鳴りっぱなしになった。	MDR-3Pはエレクトーン専用ですので、エレクトーン以外の機器に接続した場合、音が鳴りっぱなしになるなどの不都合が起こることがありますが、MDR-3Pが故障しているわけではありません。
リードのビブラートが録音できない。	HS-4・5・6・7のリードのビブラートは、MDR-3Pでは録音できません。

HXシリーズのキーボードパーカッションを録音する方法

録音	HXシリーズのベーシックチャンネル機能で[KBD P.]の[OUT]を14に変更し(HXシリーズの取扱説明書69ページを参照)、通常の方法で録音します。
再生	再生する場合は、HXシリーズの[KBD P.]の[IN]を必ず14に変更してから再生を始めてください。
修正	キーボードパーカッションを録音し直す場合は、上記の通りHXシリーズの[KBD P.]の[OUT]及び[IN]を14に変更した後、次のように行ってください。 1. [レコード]ボタンを押し、レコードセクションの[アッパー]～[コントロール]まで、すべてOFFにします。 2. もう一度[レコード]ボタンを押しますと、[レコード]ランプが点灯し、録音が行える状態になります。 3. [プレイ]ボタンを押しますと、他のパートが再生されますので、他のパートに合わせてキーボードパーカッションを演奏し、録音し直します。この時、前に録音したキーボードパーカッションはすべて消え、新しく録音し直したものに換わります。前の演奏を保存しておきたい場合は、20ページをご参照ください。

仕様

- 型式
- 記録媒体
- ディスクフォーマット
- メモリー容量
- コントロール

ミュージック・ディスク・レコーダー
3.5インチマイクロフロッピーディスク 2DD
MSX-DOS(MS-DOS Ver.1.25)
634キロバイト/最大16曲
レコード/フォーマット、ソングセレクト/テンポ+/早送り、ソングセレクト/テンポ-/早戻し、プレイ/カスタムプレイ、ストップ、ポーズ
レコード・アッパー/ソングリビート、レコード・ロー、レコード・ペダル/ソングコピーフロン、レコード・コントロール/ソングコピートゥー、プレイ・アッパー、プレイ・ロー、プレイ・ペダル、プレイ・コントロール/ソングディリット、シフト
4桁 7セグメントLED
パワー、ディスクドライブ、イジェクト

- ディスプレイ
- その他

- 入出力端子
- 定格入力電圧
- 定格入力電流
- 定格消費電力
- 寸法
- 重量
- 付属品
- オプション

MIDI IN、MIDI OUT、MIDI THRU、DC IN
DC 10v
MIN 700mA～1A
7.5w
135(w)×200(D)×63.5(H)mm
1.3Kg
電源アダプター PA-3L
MIDIケーブル(1.5m)×2、
3.5インチディスク(未フォーマット)2DD、補助シート
取付け用金具 BRT-3

MUSIC DISK RECORDER MDR-3 P

MIDI インプリメンテーションチャート

Date: 9/30, 1988

Version:C

ファンクション		送 信	受 信	備 考
ベーシックチャンネル	デフォルト 設定可能	全チャンネル ×	全チャンネル ×	ベーシックチャンネルなし
モード	デフォルト メッセージ 代用	モード1 *****	モード1 *****	
ノートナンバー	音域	0-127 *****	0-127	
ベロシティ	ノート・オン ノート・オフ	<input type="radio"/> 9 nH, v=0-127 <input type="radio"/> 8 nH, v=0-127	<input type="radio"/> 9 nH, v=0-127 <input type="radio"/> 8 nH, v=0-127	
アフタータッチ	キー別 チャンネル別	<input type="radio"/> <input type="radio"/>	<input type="radio"/> <input type="radio"/>	
ピッチベンダー		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
コントロールチェンジ	0-63 64-127	<input type="radio"/> <input type="radio"/>	<input type="radio"/> <input type="radio"/>	
プログラムチェンジ	設定可能範囲	<input type="radio"/> *****	<input type="radio"/>	
エクスクルーシブ		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
コモン	ソングポジション ソングセレクト チューン	<input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/>	<input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/>	
リアルタイム	クロック コマンド	<input type="radio"/> <input type="radio"/>	<input type="radio"/> <input type="radio"/>	
その他	ローカル ON/OFF オールノートオフ アクティブセンシング リセット	<input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/>	<input type="radio"/> <input type="radio"/> × <input type="radio"/>	
備考				

モード1:オムニ・オン, ポリ
モード3:オムニ・オフ, ポリ

モード2:オムニ・オン, モノ
モード4:オムニ・オフ, モノ

○: あり
×: なし